

- 五 農商務省農務局長及商工局長
 - 六 帝國大學總長 法科大學長一人 醫科大學長一人 工科大學長一人 文科大學長一人 理科大學長一人 農科大學長一人 理工科大學長一人
 - 七 高等師範學校長 女子高等師範學校長 札幌農學校長 高等商業學校長 東京工業學校長一人 高等學校長一人 醫學專門學校長一人 東京外國語學校長 東京美術學校長 東京音樂學校長
 - 八 帝國圖書館長
 - 九 高等師範學校附屬中學校主事 女子高等師範學校附屬高等女學校主事
 - 十 商船學校長
 - 十一 道廳府縣視學官二人
 - 十二 師範學校長二人
 - 十三 公立中學校長二人
 - 十四 公立高等女學校長一人
 - 十五 公立實業學校長三人
 - 十六 私立學校長四人
 - 十七 東京學士會院會長
 - 十八 文部省學校衛生顧問會議議長
 - 十九 學識アル者又ハ教育事業ニ閱歴アル者七人以內
- 此ノ他臨時ノ須要ニ應シ臨時議員若干人ヲ置クコトヲ得
- 職務上當然議員タル者ヲ除ク外議員及臨時議員ハ文部大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス但シ第一項第十二乃至第十四ノ議員ハ當該各學校長ニ於テ二倍ノ數ヲ互選セシメ其ノ中ニ就キ文部大臣奏請シ内閣

ニ於テ之ヲ命ス

- 第五條 文部大臣ハ必要ニ依リ前條ノ外部下高等官ヲ高等教育會議ニ臨時出席セシムルコトヲ得但シ可否ノ數ニ加ハラス
 - 第六條 高等教育會議ニ議長及副議長ヲ置キ議員中ニ就キ文部大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ勅命ス
 - 議長副議長共ニ事故アルトキハ議長ヨリ議員中ノ一人ヲ指名シテ事務ヲ代理セシム
 - 第七條 議員ノ任期ハ三箇年ヲ以テ一期トス但シ職務上當然議員タル者ハ此ノ限ニ在ラス
 - 任期アル議員ノ補欠議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間存在ス(全上追加)
 - 第八條 議長ハ規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ文部大臣ニ開申ス
 - 第九條 高等教育會議ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
 - 第十條 高等教育會議ハ毎年一回之ヲ開ク但シ必要ニ依リ臨時會議ヲ開クコトヲ得
 - 高等教育會議ノ開會及開期ハ文部大臣之ヲ定ム
 - 第十一條 議員ニハ一箇年五百圓以內臨時議員ニハ事項ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得但シ第四條第一項第一乃至第十五ニ該當スル者ニハ之ヲ給セス
 - 第十二條 高等教育會議ニ幹事一人ヲ置キ文部省高等官ヲ以テ之ニ充テ書記二人ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ充ツ
 - 幹事ハ議長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理シ書記ハ議長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス
 - 幹事ニハ一箇部二百圓以內書記ニハ一箇年百圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得
- 附 則
- 第十三條 職務上當然議員タル者及第四條第一項第十二乃至第十四ノ議員ヲ除ク外現任議員ハ本令施行ノ日ヨリ其任ヲ解カレタルモノトス

第四條第二項第十二ノ現任議員ハ同條同項第十三及第十四ノ現任議員ノ任期滿了ノ日マテ存在スルモノトス(上)

○高等教育會議議員互選規則

明治三十一年六月十八日 文部省令第十三號

第一條 師範學校長公立中學校長及高等女學校長ハ此規則ニ依リ高等教育會議規則第四條第三項但書ノ互選ヲ行フヘシ

第二條 選舉ノ期日ハ文部大臣之ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ告示ス

第三條 選舉ハ文部大臣ノ命シタル文部省高等官之ヲ管理ス

第四條 選舉ハ投票ニ依ル

第五條 投票用紙及封皮ハ第二條ノ告示後五日以内ニ當該各學校長ニ配付ス

第六條 投票書式ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等教育會議議員投票用紙

被選者官職氏名

、
、
、
、
、
、
、
、
、
、

右高等教育會議議員ニ選舉ス

年 月 日

選舉者官職氏名官印

第七條 師範學校長公立中學校長及公立高等女學校長互選人名ハ第二條ノ告示ノ日ノ現在ニ依リ確定シ五

日以内ニ之ヲ告示ス

第八條 投票ハ嚴封シテ選舉管理者ニ宛テ開票ノ一時間前マテニ到達スル様郵便ヲ以テ之ヲ差出スヘシ其時ヲ過キテ到達シタルモノハ無効トス

第九條 投票ハ選舉管理者ニ於テ其到達ノ期日ヲ帳簿ニ記載シ直ニ投票函ニ收メ選舉ノ期日マテ嚴ニ保管スヘシ

第十條 投票ノ開票點檢ハ選舉期日ノ午前十時ヨリ高等教育會議幹事立會ノ上選舉管理者之ヲ行フ

第十一條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

一 成規ノ投票用紙ヲ用ヒサルモノ

二 投票書式ニ反シタルモノ

三 汚染塗抹毀損等ニ依リ記載スル所ノ選舉者若クハ被選者ノ氏名ヲ認知スヘカヲサルモノ

第十二條 投票ニ記載シタル被選者ノ氏名ニシテ定員ヨリ多キトキハ定員ニ超エタル氏名ヲ末尾ヨリ除却スヘク又定員ヨリ少キトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ

第十三條 投票總數ノ多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選者トス

第十四條 投票同數ナルトキハ當該官職任命ノ日ノ早キ者ヲ當選者ト定ム其日同一ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

○地方教育會規則

明治三十一年一月十八日 奈良縣令第五號

第一條 奈良縣地方教育會ハ教育事項ニ關シ知事ノ諮詢ニ應シ意見ヲ開申スルモノトス

第二條 奈良縣地方教育會規則

- 第二條 奈良縣地方教育會ハ教育ニ關スル事項ニ就キ其意見ヲ知事ニ具申スルコトヲ得
- 第三條 奈良縣地方教育會ハ左ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス(三十四年九月二十日縣令第三十七號ヲ以テ改正)
 - 一 師範學校長、師範學校首席教諭、師範學校附屬小學校主事
 - 二 中學校長
 - 三 高等女學校長
 - 四 工業學校長
 - 五 農林學校長
 - 六 各郡々視學
 - 七 市町村立小學校長 十一名
 - 八 學識アル者又ハ教育事業ニ閱歴アル者五名以內
- 此ノ他臨時委員若干名ヲ置クコトヲ得
- 第四條 委員ハ知事之ヲ命シ若クハ囑托ス
- 第五條 奈良縣地方教育會ハ知事之ヲ開閉ス
- 第六條 奈良縣地方教育會ハ委員半數以上出席スルニ非レハ會議ヲ開キ及議決ヲナスコトヲ得ス
議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルルハ會長ノ決スル所ニ依ル
- 第七條 奈良縣地方教育會長ハ知事之ニ當リ知事事故アルルハ其指名シタル代理者ヲ以テ之ニ充ツ
- 第八條 會長ハ職事ヲ整理シ會議ノ決議ヲ知事ニ具申ス
- 第九條 奈良縣地方教育會ニ幹事一名書記若干名ヲ置キ知事之ヲ命ス
幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理シ書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス
- 第十條 委員中第三條第一項第七號第八號及第二項ニ該當スルモノニハ左表ニ定ムル處ニ從ヒ旅費又ハ手

當ヲ給ス但官吏ハ此限ニアラス(上)

手當	旅費		種別	金額	汽車賃ニ付哩	馬賃ニ付里	日當
	金	額					
一	壹	圓	五	拾	錢	壹	圓
日	壹	圓	五	拾	錢	壹	圓

旅費ハ明治三十年(九月)勅令第三百三十三號內國旅費規則ニ準據シテ之レヲ給ス
手當ハ旅費ヲ受クルコトヲ得ザル者ニ限り出席日數ニ應シテ之ヲ給ス

第十三編 視學

○文部省官制 明治三十一年十月二十二日 勅令第二百七十九號

○地方官官制 明治二十六年十月三十日 勅令第六百六十二號

○視學俸給 明治三十二年六月十四日 勅令第二百五十七號

(本文ハ附録ニ掲載)
(本文ハ附録ニ掲載)

道廳視學、府縣視學及郡視學ノ俸給ハ判任官俸給八級以上トス

附 則

本令ハ郡視學ニ關シテハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

○視學官及視學特別任用令 明治三十二年六月十四日 勅令第二百六十號

第一條 文部省視學官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ任用スルコトヲ得

一 二箇年以上文部省直轄學校ノ學校長又ハ委任教官ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

二 第二條第三號ニ該當スル者ニシテ一箇年以上道廳府縣視學官ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

第二條 道廳府縣視學官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ任用スルコトヲ得

一 文部省視學官ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

二 二箇年以上官立學校ノ學校長又ハ委任教官ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

三 三箇年以上師範學校長官立公立中學校長官立公立高等女學校長又ハ官立公立實業學校長ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

四 五箇年以上道廳府縣視學又ハ郡視學ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

第三條 道廳府縣視學及郡視學ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ任用ス

一 三箇年以上師範學校官立公立中學校官立公立高等女學校又ハ官立公立實業學校ノ學校長教諭又ハ助教諭ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

二 小學校本科正教員タル資格ヲ有シ三箇年以上官立公立學校ノ學校長ノ職ニ在ル者又ハ在リタル者

三 五箇年以上判任官トシテ教育ニ關スル職務ニ從事シ又ハ從事シタル者

附 則

第四條 第二條ニ規定シタル在職年數ハ本令施行ノ際ニ限リ其半數ニ減スルコトヲ得

第五條 本令施行ノ際ニ地方視學ノ職ニ在ル者ハ道廳府縣視學ニ任用スルコトヲ得

第六條 本令中同號ニ規定シタル各職ノ在職年數ハ之ヲ通算ス

地方視學ノ在職年數ハ道廳府縣視學ノ在職年數ニ通算ス

○地方官官制中郡視學ニ關スル規定施行ノ際ニ於ケル郡視學任用ノ件

明治三十三年三月十五日
勅令第四百五十三號

地方官官制中郡視學ニ關スル規定施行ノ際ニ限リ郡視學ノ職ニ在リテ月俸二十五圓以上ヲ受ケ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ同規定施行ノ際ニ限リ郡視學ニ任用スルコトヲ得

一 一年六ヶ月以上師範學校官立公立中學校官立公立高等女學校又ハ官立公立實業學校ノ學校長教諭又ハ助教諭ノ職ニ在リタル者

二 小學校本科正教員タル資格ヲ有シ三ヶ年以上官立公立學校ノ訓導ノ職ニ在リタル者

○郡視學職務規程

明治三十三年三月十六日
奈良縣訓令甲第十七號

郡視學職務規程左ノ通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

郡 役 所

郡視學職務規程

第一條 郡視學ハ郡長ノ命ヲ受ケ學事ノ視察其他學事ニ關スル庶務ニ從事ス

第二條 郡視學ハ毎月十五日以上其郡内ヲ巡視スルモノトス

第三條 郡視學ノ視察スヘキ事項ノ概目左ノ如シ

一 教育行政ノ狀況

二 教授、管理、訓練ノ狀況

三 學校衛生ノ狀況

四 學校經濟ノ狀況

五 學事關係、職員職務ノ狀況

六 教育學藝ニ關スル諸施設ノ狀況

七 其他特ニ指命ヲ受ケタル事項

第四條 郡視學ハ視察シタル事項ニ關シ意見アルトキハ關係者ニ指示若クハ協議スルコトヲ得

但重要ナル事項ニ關シテハ豫メ郡長ノ指揮ヲ受クルモノトス

第五條 郡視學巡視ヲ終リタルトキハ直ニ口頭ヲ以テ大要ヲ復命シ更ニ五日以内ニ復命書ヲ提出スルモノトス

○郡視學復命書進達方

明治三十三年三月十六日
奈良縣訓令甲第十八號

郡 役 所

明治三十三年(三月)奈良縣訓令甲第十七號郡視學職務規程第五條ノ復命書ニハ詳細ナル意見ヲ附シ其翌月十日限當廳ニ進達スヘシ

○郡視學旅費支給方法

明治三十三年三月廿一日
奈良縣訓令甲第三十號

郡視學部内ヲ巡回スルトキハ左ノ日額旅費ヲ支給シ其他ノ旅行ニ附テハ本年(三月)奈良縣訓令甲第二十九號ニ依リ支給スヘシ但郡役所ヲ距ル往復一里以内ノ地へ出張シタルトキハ日額旅費ヲ支給セス(訓令甲第六十八號ヲ以テ改正)

郡役所

添上郡	日額金九拾錢
生駒郡	日額金七拾五錢
山邊郡	
磯城郡	
宇陀郡	
吉野郡	
高市郡	
北城郡	
南葛城郡	
宇智郡	

一日中郡内郡外ノ旅行相跨リタルトキハ郡外旅費額ニ依リ當日分ノ旅費ヲ支給スヘシ

附則

本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第十四編 學校衛生

公立學校學校醫

明治三十一年一月十二日勅令第二二號

第一條 北海道廳府縣郡市町村ノ設置ニ係ル學校ニ學校醫ヲ置ク

地方長官ハ特別ノ事情アルトキハ村立學校及人口五千未満ノ町立學校ニハ當分ノ内學校醫ヲ置カサルコトヲ得

第二條 學校醫ハ地方長官之ヲ囑託ス

第三條 學校衛生事務ニ關シ學校醫ハ地方長官郡市町村長ノ諮詢ニ應シテ意見ヲ述フヘク又之ニ建議スルコトヲ得

第四條 學校醫ニハ其ノ學校經費ヨリ相當ノ手當ヲ給スヘシ

第五條 學校醫ノ囑託執務及其ノ他ニ關シ必要ナル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

第六條 本令ニ於テハ北海道沖繩縣ノ區ノ設置ニ係ル學校ハ村立學校ト同視シ沖繩縣ノ間切及島ノ設置ニ係ル學校ハ村立學校ト同視ス

第七條 市制町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ本令中市町村長ニ關スル規程ハ島司郡長(北海道ニ在テハ支廳長)區長戶長又ハ之ニ準スヘキモノニ適用ス

第八條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

學校醫職務規程

明治三十一年二月二十六日文部省令第六號

第一條 學校醫ハ本令ニ規程アルモノ、外地方長官ノ命ヲ受ケ學校衛生ニ關スル職務ニ從事ス

第二條 學校醫ハ毎月少クトモ一回教授時間内ニ於テ當該學校ニ到リ衛生上ノ事項ヲ視察スヘシ

學年ノ終及學期ノ始ニ於テハ特ニ當該學校ニ到リ視察スルコトヲ要ス

第三條 學校醫ハ學校視察ノ際左ノ事項ヲ調査シ之ヲ視察簿ニ記入スヘシ

- 一 換氣ノ良否
 - 二 採光ノ適否
 - 三 机腰掛ノ適否
 - 四 前列及最後列ノ机ト黑板トノ距離
 - 五 煖爐ノ有無及煖爐ト最近生徒トノ距離
 - 六 室内ノ温度
 - 七 圖書掛圖黑板ノ衛生上ノ適否
 - 八 學校清潔方法實行ノ情況
 - 九 飲料水ノ良否
 - 十 其ノ他學校衛生上必要ナル事項
- 第四條 學校醫ハ學校視察ノ際疾病ニ罹レル生徒ヲ發見シタルトキハ其病症ニ依リ缺課休學又ハ療治ヲ爲サシムヘキコトヲ學校長ニ申告スヘシ
- 第五條 學校醫ハ明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢查規程ニ依リ各生徒ノ身體ヲ檢查シ身體檢查票ヲ調製スヘシ
- 學校醫ハ生徒ノ入學退學等ニ際シ學校長ノ請求ニ應シ其ノ生徒ノ身體ヲ檢查スヘシ
- 第六條 學校醫ハ學校ノ近傍若クハ學校内ニ於テ傳染病ノ發生シタルトキハ數次學校ニ到リ必要ナル豫防消毒方法ヲ施行シ尙其情況ニ依リ學校ノ全部若クハ一部分ノ閉鎖ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ管理者及學校長ニ申告スヘシ

通學生徒ノ所在地ニ傳染病ノ發生シタル場合ニ於テ其通學生徒ノ昇校ヲ禁スヘキ必要ヲ認ムルトキハ之ヲ管理者及學校長ニ申告スヘシ

第七條 學校醫ハ衛生上必要ト認メタル事項ニ就テハ管理者及學校長ニ申告スヘシ

第八條 此規程施行ノ爲メ必要ナル細則ハ地方長官之ヲ定ムルコトヲ得

○學校醫ノ資格

明治三十一年二月二十六日 文部省令第七號

第一條 學校醫ヲ囑託スルニハ左ニ掲クル各項中ノ一ニ該當シ且醫術開業免狀ヲ有スル者ノ中ニ於テスヘシ

- 一 帝國大學醫科大學醫學科卒業ノ者
 - 二 元東京大學醫學部醫學科本科又ハ別課卒業ノ者
 - 三 高等學校醫學部醫學科卒業ノ者(註日現今ノ醫學專門學校)
 - 四 元高等中學校醫學部醫學科卒業ノ者
 - 五 大阪府京都府愛知縣醫學學校醫學科卒業ノ者
 - 六 元府縣立甲種醫學學校卒業ノ者
 - 七 試驗ヲ經テ帝國大學醫科大學國家醫學講習科ニ入學シ同科ヲ修了シタル者
- 第二條 第一條ノ資格ヲ具フル者ヲ得難キ場合ニ於テハ明治十六年布告第三十五號醫師免許規則第二條又ハ第四條ニ依リ醫術開業免狀ヲ有スル者ニ囑託スルコトヲ得

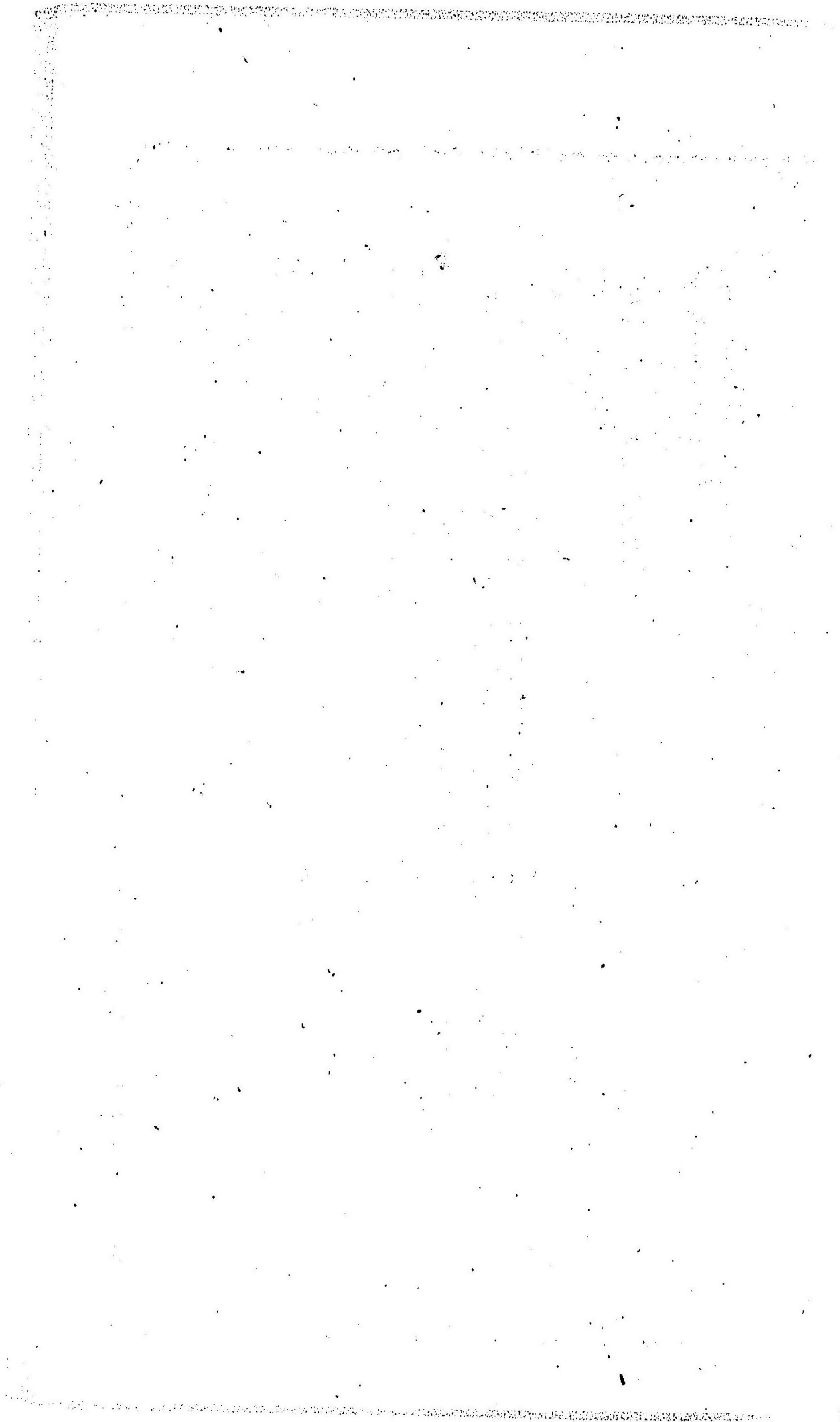
○學校傳染病豫防及消毒方法

明治三十一年九月二十八日 文部省令第二十號

學校傳染病豫防及消毒方法

其一 豫防方法

第一條 學校ニ於テ特ニ豫防スヘキ傳染病ノ種類左ノ如シ



- 一 石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸五分、濃酸一分、水九分
本品ハ屍體、吐瀉物其他ノ排泄物、器具、居室、手足等ノ消毒ニ用フ又衣類等ヲ消毒スルニハ鹽酸ヲ加ヘサルモノヲ用フヘシ
- 二 生石灰末 生石灰ニ少量ノ水ヲ混キ崩壊セシメタルモノ但用ニ臨ミテ之ヲ製スヘシ
本品ヲ以テ吐瀉物其他ノ排泄物ヲ消毒スルニハ其分量ノ五十分ノ一ヲ用フヘシ又溝渠、芥溜、牀下等ヲ消毒スルニ用フ
- 石灰乳(十倍) 生石灰一分ニ水九分ヲ攪拌混和シタルモノ
本品ノ應用ハ生石灰末ニ同シク吐瀉物、排泄物等ニハ其分量ノ五分ノ一ヲ用フ
- 木灰ハ生石灰ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テ虎列刺病患者ノ吐瀉物、赤痢病患者、腸窒扶斯患者ノ排泄物ノ消毒ニ用フルコトヲ得其用量ハ吐瀉物、排泄物ノ五分ノ一トス灰汁トシテ使用スルニハ木灰一分ニ水四分ヲ加ヘ之ヲ煮沸シテ製スヘシ其用量ハ吐瀉物、排泄物ノ同容量トス但石炭灰、藥灰ハ木灰ト同一ノ効ナシトス
- 三 格魯兒石灰水(二十倍) 格魯兒石灰五分ニ水九分五分ヲ攪拌混和セルモノ
格魯兒石灰水ノ應用並用量ハ石灰乳ニ同シ但用ニ臨ミテ製スヘシ

附 則

第十二條 此省令ハ幼稚園ニ適用ス

文部省令第二十號參照

明治三十年(一月十一日)文部省訓令第一號ハ學校清潔方法ノ件ナリ

○學生生徒身體檢查規程

明治三十三年三月二十六日 文部省令第四號

第一條 學生生徒ノ身體檢查ハ毎年四月及十月ニ於テ之ヲ施行スヘシ但シ滿二十年以上ノ學生生徒ニ就キ

テハ四月ノ一回ニ止ムルコトヲ得

學校長ニ於テ必要ト認ムルトキハ學生生徒ニ就キ臨時身體檢查ノ全部若ハ一部ヲ施行スルコトヲ得

第二條 明治三十一年勅令第二號第一條第二項ニ依リ學校醫ヲ置カサル町村立學校及私立ノ小學校及各種學校ハ本令ノ身體檢查ヲ行ハサルコトヲ得

第三條 身體檢查ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ但シ學校醫ヲ置カサル場合ニ於テハ他ノ醫師ヲシテ行ハシムルコトヲ得

第四條 身體檢查ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ

- 一 身長
- 二 體重
- 三 胸圍
- 四 脊柱
- 五 體格
- 六 視力
- 七 眼疾
- 八 聽力
- 九 耳疾
- 十 齒牙
- 十一 疾病

毎年十月ニ於テ施行スル檢查ニ在リテハ身長、體重及疾病ノ三項目ニ止ムルコトヲ得

小學校生徒ニ在リテハ視力及聽力ノ二項目ヲ檢查スルコトヲ要セス但シ著シキ障害アリト認ムル者ハ此限ニ在ラス

第五條 身體檢查ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ

- 一 検査器械ハ「メートル」式ニ從ヒ衡器ハ水準器ヲ具ヘタルモノヲ可トス
- 二 検査ノ表記ニハ衡ハ「キログラム」度ハ「センチメートル」ヲ以テ一位トシ以下四捨五入法ヲ用ヒテ小数一位ヲ作ルヘシ
- 三 身長ヲ測定スルニハ足袋、靴等ヲ脱セシメ兩膝ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ又女子ニシテ齒アル者ハ小桿ヲ齧下ヨリ水平ニ横ヘテ測定スヘシ
- 四 體重ハ著衣ノ儘測定セサルヲ可トス若シ著衣ノ儘又ハ検査服ヲ着用セシメタルトキハ其ノ風袋ヲ重量ヨリ除去スヘシ

五 胸圍ハ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ自然ノ位置ニ在リシメ乳頭ノ水平線ニ於テ常時ヲ測定スヘシ充盈、空虛ノ差ヲ測定スルトキ亦同シ但シ小學校生徒ニ在リテハ常時ノミヲ測定スルモノトス

六 脊柱ハ正、左彎、右彎、後屈及屈彎ノ程度ヲ検査シ強中弱ノ三種ニ區別スヘシ

七 體格ハ強健、中等、薄弱ノ三等ニ區別スヘシ

八 視力ハ中心視力ヲ兩眼ニ就キテ各別ニ検査スヘシ

九 聽力ハ其ノ障害ノ有無ヲ検査スヘシ

十 齒牙ハ齶齒ノ有無ヲ検査スヘシ

十一 疾病ハ腺病、營養不良、貧血、脚氣、肺結核、頭痛、衄血、神經衰弱其ノ他慢性疾患等検査ノ際ニ發見シタルモノヲ記入スヘシ

前各號ノ外身體検査上必要ト認メタル事項ハ特ニ検査ヲ行フヘシ

第六條 身體検査ヲ施行シタルトキハ左ノ様式ニ依リ身體検査票ヲ調製スヘシ

校何		姓名		出生年月		學年		出生地	
姓	名	姓	名	年	月	年	月		
身體検査票 (男)		身體検査票 (女)		身體検査票 (男)		身體検査票 (女)		身體検査票 (男)	
身長	體重	胸圍	常時	胸圍	盈虛ノ差	視力	右	左	眼疾
體格	強	弱	中	弱	強	耳疾	聽力	眼疾	齒牙
備考	検査醫姓名印								

第七條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ左ノ様式ニ依リ統計表ヲ調製シ翌月限り文部省直轄學校長ニ在リテハ文部大臣ニ其ノ他ノ學校長ニ在リテハ地方長官ニ報告スヘシ

地方長官ハ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取總メ四月検査ニ係ルモノハ其ノ年六月限り十月検査ニ係ルモノハ其ノ年十二月限り文部大臣ニ報告スヘシ (三十四年三月省令第六號ヲ以テ改正)

校名		學生生徒		身體検査統計表 (男)		明治 年 月 検査	
身長	長	重	時差	常	盈	虛	正
胸圍	強	弱	中	弱	強	視	正
脊柱	左	右	後	屈	強	中	薄
體格	視	左	右	眼	力	眼	疾
力	耳	聽	眼	疾	齒	牙	疾
總	人	員	考				

一 本表ノ年齢ニ於テ何年ト稱スルハ一箇月ヨリ十二箇月ニ至ル迄ヲ云フ例ハ七年前ト稱スルハ六年一箇月以上滿七年迄ヲ指スカ如シ

一本表ノ平均ハ最大最小ノ平均ニアラス總數ノ平均ナリ
 一本表ハ男生徒女生徒ヲ置クモノ及學科ノ部類ヲ異ニスルモノハ各別ニ調製スヘシ
 一検査スヘキ科目ノ全部ヲ検査セサルモノハ表中之ヲ記入スヘカラス

第八條 幼稚園ニ於テハ本令中小學校生徒ノ身體検査ニ關スル規程ヲ準用ス

附 則

第九條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

○高等師範學校女子高等師範學校及師範學校入學志望者

入學禁止項目

明治三十五年二月二十四日
 文部省令第五號

高等師範學校、女子高等師範學校及師範學校ニ於テハ其ノ入學志望者ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スルモノヲ入學セシムヘカラス

- 一 明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體検査規程第五條第一項第七號ノ體格薄弱ニ屬スル者
- 二 精神機能ニ障害アル者
- 三 傳染性眼炎ヲ患フル者又ハ眼鏡ヲ以テ補正スルコト能ハサル近視、亂視、弱視等ヲ有スル者
- 四 聽官又ハ言語ノ障害著シキ者
- 五 肺結核其ノ他結核ノ諸兆アル者
- 六 心臟瓣膜病ヲ患フル者
- 七 惡性腫瘍、腎臟炎、糖尿病、重症貧血等ヲ患フル者
- 八 修學上ニ妨アル疾病ニ罹リ急治ノ見込ナキ者若ハ他ニ感染ノ虞アル疾病ヲ患フル者

○學校生徒ノ喫煙ニ關スル取締

明治三十三年三月二十六日
 文部省訓令第五號

北海道廳 府縣
 文部省直轄學校

學校生徒ノ喫煙ニ關シテハ小學校ニ在リテハ明治二十七年文部省訓令第六號ヲ以テ生徒ノ喫煙スルコト及煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘキ旨訓令シ中學校等ニ在リテモ實際喫煙ヲ禁止セルモノ多シ蓋シ學校生徒ノ喫煙ハ衛生上有害ナルノミナラス風紀ニ關スルコト少ナカラス殊ニ此際未成年者喫煙禁止法ノ發布アリタルニ就キテハ小學校中學校師範學校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ在リテハ取締上其ノ生徒ノ成年以下ナルト以上ナルト學校ノ内外トナ問ハス喫煙シ及煙草煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁止スヘシ其ノ他ノ學校ニ在リテモ特ニ注意ヲ加ヘ法律違反ノ者ナカラシムコトヲ期スヘシ

(參照)

○未成年者禁煙禁止法

明治三十三年三月六日
 法律第三十三號

- 第一條 未成年者ハ煙草ヲ喫スルコトヲ得ス
- 第二條 前條ニ違反シタル者アルトキハ行政ノ處分ヲ以テ喫煙ノ爲メニ所持スル煙草及器具ヲ沒收ス
- 第三條 未成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者情ヲ知リテ其喫煙ヲ制止セサルトキハ一圓以下ノ科料ニ處ス
- 第四條 親權ヲ行フ者ニ代リテ未成年者ヲ監督スル者亦前項ニ依リテ處斷ス
- 第四條 未成年者ニ其自用ニ供スルモノナルコトヲ知リテ煙草又ハ器具ヲ販賣シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○學校生徒喫煙ニ關スル取締

明治三十三年三月三十日
 奈良縣訓令甲第廿四號

郡 市 師 高
 役 學 等
 所 學 女
 校 校 校 校

學校生徒ノ喫煙ニ關シ左ノ通文部大臣ヨリ訓令有之候條能ク本令ノ趣旨ヲ體シ取締上特ニ注意ヲ加ヘ法律違反ノ者ナカラシメシコトヲ期スヘシ

(文部大臣訓令前掲ニ付略)

○全上之件

奈良縣達第四號

私立中學校文武館

學校生徒ノ喫煙ニ關シ文部大臣ヨリ訓令ノ次第モ有之候條本年(三月)奈良縣訓令甲第廿四號ノ趣旨ヲ體シ以テ其校生徒取締上特ニ注意ヲ加ヘ法律違反ノ者ナカラシメシコトヲ期スヘシ

奈良縣通牒第一五七〇號 (明治三十五年六月廿九日)

學校生徒ニシテ未成年者喫煙禁止法ニ違背シタルモノハ處分ノ上警察官ヨリ所屬學校長ニ通知可有之等ニ候條及通牒(縣立學校長)

奈良縣通牒第一三九二號 (明治三十三年六月五日)

本年文部省令第四號第七條ニ依ル學校生徒身体检査表ハ當廳ニ報告スヘキ筈ナルニ往々本省へ直接報告ノ向有之又表中左記各項ノ誤謬不少差支候條爲心得及通牒(縣立學校長各郡市長宛)

- 一 身長、胸圍、體重ハ第五條第二號ニ依リ一位以下小數位一位ヲ作り記入スヘキ筈ナルニ或ハ一位ニ止メ小數位ヲ記入セス或ハ小數二位以上ヲ作り記入シタルモノアルニト
- 二 視力ハ兩眼正視ノモノヲ其欄ニ記入シ其他ノモノハ左右眼當該欄ニ記入スヘキ筈ナルニ該兩眼正視ノモノヲ其欄ニ記入シ更ニ左右眼ノ欄ニモ記入シタルモノアルコト
- 三 平均數ノ最大數ヨリ大ナルモノ又ハ最小數ヨリ小ナルモノアルコト
- 四 裁縫專修生ニ体检檢査ヲ行フトキハ別表ニ調製スヘシ

○學校清潔方法

明治三十年一月十一日 文部省訓令第一號

學校ノ清潔ハ衛生上忽ニスヘカラスナル所ナルヲ以テ學校衛生顧問ニ諮詢シ左ノ通清潔方法ノ標準ヲ定ム依

北海道廳 府縣

テ各學校ヲシテ之ニ準據シ其清潔ヲ保タシムルコトヲ務ムヘシ

學校清潔方法

清潔方法ヲ分チ日常清潔方法定期清潔方法及浸水後清潔方法トス

甲 日常清潔方法

- 一 教室及寄宿舎ハ毎日人ナキ時ニ於テ先ツ窓戶ヲ開キ如露ヲ以テ少シク牀板及階段ヲ潤ホシ掃出シタル後濕布ヲ以テ建具校具等ヲ拭フヘシ但掃除ノ爲メニ室内ヲ潤ホスハ生徒ノ再ヒ之ニ入ルマテニ充分乾燥シ了ルヲ度トスヘシ
- 二 教室及寄宿舎ニハ其人員ニ應シ紙屑籠ト少量ノ水ヲ盛レル唾壺トヲ備ヘ紙片其他棄却物ハ必ス紙屑籠ニ投入シ痰唾ハ必ス唾壺ニ於テシ決シテ室内廊下等ニ放下セシムヘカラス
- 三 紙屑籠及唾壺ハ毎日之ヲ掃除スヘシ
- 三 寄宿舎内ニ於テハ戶外ニ於テ用ヰル履物ヲ禁スヘシ但止ムヲ得サル事情アリテ特ニ之ヲ許ストキハ適宜ノ方法ヲ設ケテ室内ノ不潔ニ陥ラサルコトヲ務ムヘシ
- 四 靴ハ儘昇降スル校舎ノ出入口ニハ人員ニ應シ靴拭ヲ備フヘシ
- 五 寢具ハ毎月少クトモ一回之ヲ日光ニ曝シ被覆寢衣等ハ務メテ洗濯セシムヘシ
- 六 便所ノ尿溝及注壁等ハ毎月一回水ヲ以テ洗ヒ圍房ハ濕布ヲ以テ拭フヘシ桶箱ニハ成ルヘク蓋ヲ設クヘシ
- 七 糞壺内ニハ防臭藥トシテ粗製過滿倫酸加里、粗製格魯兒滿倫(以上百倍乃)硫酸鐵、泥炭末、木炭末、乾燥土粉、灰等ヲ撒布シ期ヲ愆ラズ汲取ラシムヘシ
- 八 食堂、炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ハ時々窓戶ヲ開キテ空氣ヲ通シ惡臭、煙氣又ハ湯氣ノ鬱滯ナキヲ務メ且掃除ヲ怠ルヘカラス殊ニ食堂ニ於テハ每食前如露ヲ以テ牀面ヲ潤ホシ食後ニハ濕布ヲ以テ其食

卓等ヲ拭フヘシ

- 九 芥菜場ノ不潔物ハ期ヲ愆ラス搬送セシムヘシ
- 十 下水ハ常ニ疏通セシメ炊事場、浴室、洗面所、洗濯所等ノ下水ハ毎月少クトモ一回大掃除ヲ行フヘシ
- 十一 庭園、體操場、遊戯場、簷下、椽下等モ亦常ニ清潔ヲ保タシムヘシ

乙 定期清潔方法

- 定期清潔方法ハ毎年少クトモ一回夏休又ハ其他ノ長休ニ際シ之ヲ行フモノトス
- 十二 先ツ教室、寄宿舎内等ニ在ル机、腰掛、寢臺、戸棚等ヲ室外ニ出シ戸、障子、窓懸等ヲ外シ敷物ヲ剝キタル後如露ヲ以テ牀板及廊下ヲ潤ホシ天井、四壁、牀板、廊下等盡ク之ヲ掃ヒ然ル後清水ヲ以テ洗拭スヘシ但汚染殊ニ甚シキ部分及器具等ハ熱湯汗若クハ石鹼水ヲ以テ洗拭スヘシ
- 十三 簾下、牀下等モ手ノ届ク限り之ヲ掃ヒ外部ノ羽目及簾廻リハ龍吐水等ヲ以テ洗滌スヘシ
- 十四 寢具、窓懸、敷物等ニシテ洗濯シ得ヘキモノハ之ヲ洗濯シ其洗濯シ得ヘカヲサルモノハ先ツ其塵ヲ掃ヒ書籍文具等ト共ニ數日之ヲ日光ニ曝シ刷掃スヘシ
- 十五 器具、寢具等ハ總テ室ノ乾キタル後ニアラサレハ室内ニ持込ムヘカラス
- 十六 室ハ掃除後五日間以上窓戸ヲ開キテ空氣及日光ヲ通セシムヘシ
- 十七 牀板、壁面等ニ齶隙アルモノハ此際之ヲ填塞シ風抜穴、煙突等ノ塵煤ハ之ヲ除去スヘシ
- 十八 浴室、洗面所、食堂、炊事場、生徒控所、雨中體操場、便所、下水、芥菜場等ニシテ破損アルモノハ此際盡ク修理ヲ加ヘ且大掃除ヲ行フヘシ

丙 浸水後清潔方法

- 十八 洪水ノタメ水害ヲ被リタル學校ハ開校前左ノ清潔方法ヲ施行スヘシ
- 十九 水ニ浸サレタル校舎殊ニ寄宿舎ノ建具牀板等ハ取外シテ空氣ヲ通シ且牀下ノ汚物泥土ヲ除去シ場合

- ニ依テハ焚火、火鉢等ヲ用非テ充分ニ乾燥セシムヘシ
- 十九 建具、牀板、校具、腰張等ノ浸水シタルモノハ清水又ハ熱湯ヲ以テ洗拭シタル後可成之ヲ日光ニ曝シ充分ニ乾燥セシムヘシ
- 二十、浸水ノ害ヲ被リタル井戸ハ必ス數回之ヲ浚渫シテ汚物ヲ除キ井戸側ハ清水ヲ以テ洗ヒ能ク水ノ澄ミタル後ニ之ヲ使用スヘシ但開校後一箇月間ハ必ス其水ヲ煮沸シテ飲用スヘシ
- 二十一、右ノ外定期清潔方法ニ掲ケタル各項ヲ適宜應用スヘシ

○小學校兒童身體檢查執行方

明治三十三年九月十一日 奈良縣訓令甲第六十三號

郡 役 所

學校醫ヲ置カサル町村立小學校生徒ノ身體檢查ハ町村醫又ハ他ノ醫師ヲシテ明治三十三年(三月)文部省令第四號學生生徒身體檢查規程ニ依リ普ク之ヲ行ハシムヘシ

特別ノ事情アリテ前項ノ身體檢查ヲ行フ能ハサルモノアルトキハ取調ノ上開申スヘシ

明治三十年(六月)奈良縣訓令第五十八號ハ廢止ス

奈良縣訓令第六十三號參照

明治三十年(六月)奈良縣訓令第五十八號ハ小學校生徒身體檢查規程ナリ

○師範學校本科生徒病類別患者表報告方

明治三十四年十二月四日 文部省訓令第三號

師範學校本科生徒病類別患者左記様式ニ從ヒ毎年四月三十日限文部大臣ニ報告スヘシ

本令ノ調査ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行スヘシ

明治(何)年度(何)師範學校本科第(何)學年(男又ハ女)生徒病類別患者表

病

類 疾病番號 舊患者 新患者 合計

轉

治癒死亡 病氣退學事故 後遺

校內治療 校外治療 人員日數 人員日數

消 (五)					病器行血(四)				病器吸呼 (三)						病系經神										
慢性胃「カタル」	急性胃「カタル」	扁桃腺炎	口腔、咽喉病	齒病及其繼發病	計	心臓病	心臓病	心臓病	其	計	喉、副腔病	鼻病	末梢神經病	脊神經病	神經衰弱病	腦病									
五二	五二	五〇	四九	四八		四七	四六	四五	四四	四三	四二	四一	四〇	三九	三八	三七	三六	三五	三四	三三	三二	三一	三〇	二九	二八

(二)		病 身 全 (一)																							
小兒病	精神病	計	其中毒	喝(日射中熱)病	營養不良病	貧血病	腺病	癩病	脚氣	關節「リョーマチス」	流行性耳下腺炎	流行性感冒	赤痢	霍亂	腸「チフス」	「チフス」	發疹「チフス」	猩紅熱	麻疹	水痘	痘疹、假痘				
二七	二六	二五	一四	一三	一二	一一	一〇	〇九	〇八	〇七	〇六	〇五	〇四	〇三	〇二	〇一	九	八	七	六	五	四	三	二	一

傷外 (三)					器運(士)			病被外 (十)					病耳 (九)			病							
熱	脫	骨	捻	切	皮 下 挫 傷 裂 傷	計	其 筋 骨 關 節 肉 節	計	其 癩 癰 潰	非 寄 生 性 皮 膚 病	寄 生 性 皮 膚 病	計	其 內 耳	中 耳	外 耳	計	其 視 器 官 能 異 常	屈 折 (近 視 除 ク) 調 節 異 常	近 視				
傷	白	折	挫	創																創	傷	他	病
一〇	〇〇	九九	九八	九七	九六	九五	九四	九三	九二	九一	九〇	八九	八八	八七	八六	八五	八四	八三	八二	八一	八〇	七九	七八

眼 (八)				病柳花 (七)				器生器泌(六)				病器化												
鞏 膜 、 角 膜 病	非 傳 染 性 結 膜 病	傳 染 性 結 膜 病	眼 險 病	計	其 梅 毒	橫 痃	軟 瘡	痲 疾	計	其 腔 及 子 宮 病	尿 道 及 睪 丸 病	膀 胱 病	腎 臟 病	計	其 腸 、 肝 蟲 諸 疾	痔 疾	腹 膜 炎	肝 臟 及 脾 臟 病	盲 腸 炎 、 盲 腸 周 圍 炎	慢 性 腸 カ タ ル	急 性 腸 カ タ ル	胃 潰 瘍	胃 弱	胃 瘵
七七	七六	七五	七四	七三	七二	七一	七〇	六九	六八	六七	六六	六五	六四	六三	六二	六一	六〇	五九	五八	五七	五六	五五	五四	五三

以下二位ニ一學年間治療費ハ厘位ニ止メ四拾五入スヘシ

十八 備考ノ部ニハ學校ノ主任醫ヲシテ學校ニ存在スル最多ノ疾病ノ原因及豫防等ニ關スル意見等ヲ記述セシメ尙學校醫ノ意見アルモノハ之ヲ附記セシムヘシ

○全上之件

明治三十五年一月十三日
奈良縣訓令乙第一號

奈良縣師範學校

師範學校本科生徒病類別患者表ヲ左記様式ニ從ヒテ調製シ毎年四月二十日限り報告スヘシ
本令ノ調査ハ本年四月一日ヨリ施行スヘシ

(様式文部省訓令第三號ト同一ニ付略之)

◎第十五編 報告及統計

○學事年報取調條項及諸表様式

明治三十四年二月十二日
文部省訓令第一號

學事年報取調條項及諸表様式別冊之通定ム

明治廿八年文部省訓令第三號ハ廢止ス

文部省訓令第一號別冊

學事年報取調條項

一管内學事ノ狀況

學事施設ノ要領及學事ノ現狀ヲ記述スヘシ

一學齡兒童

就學ニ關スル規則施行ノ狀況ヲ記述スヘシ

一小學校

學校ノ設備、編制、修業年限及補習科ニ關スル狀況、公立學校ノ配置適否ノ狀況、代用私立學校ノ狀況、教員ノ需要供給及待遇ノ狀況ヲ記述スヘシ

一幼稚園

幼稚園ノ設備、幼兒保育ノ狀況ヲ記述スヘシ

一盲啞學校

學校ノ設備、授業ノ狀況、生徒卒業後ノ狀況ヲ記述スヘシ

一師範學校

學校ノ設備、教諭助教諭ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由、入學者生徒ノ種別、從前ノ職業、年齡、父兄ノ職業半途退學者ニ關ス

ル狀況、生徒卒業後ノ狀況、附屬小學校及小學校教員講習科等ノ狀況ヲ記述スヘシ

一 中學校
學校ノ設備、有資格教員ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由、入學者從前ノ教育、年
齡、父兄ノ職業半途退學者人員補習科ニ關
スル狀況ヲ記述スヘシ

一 高等女學校
學校ノ設備、有資格教員ノ教員免許狀ヲ受得シタル事由、入學者從前ノ教育、年
齡、父兄ノ職業半途退學者ニ關スル狀況、
技藝、專修科、補習科、專攻科ノ狀況ヲ記述スヘシ

一 專門學校

一 實業學校
學校ノ設備、入學者從前ノ教育、年
齡、父兄ノ職業半途退學者人員ニ關スル狀況ヲ記述シ又實業學校ニ在リテハ學校ト實業

トノ關係ヲ記述スヘシ

一 各種學校
學校ノ設備、授業ノ狀況ヲ記述スヘシ

一 圖書館
閱覽人ノ狀況、閱覽圖書ノ種類及其ノ閱覽人ヲ各別ニ記述スヘシ

一 學校衛生
學校清潔方法施行ノ狀況、學校醫ノ視察及生徒又ハ兒童ノ身體檢査ノ狀況、傳染病豫防及消毒ニ關スル
施行ノ狀況、生徒又ハ兒童ノ健康ノ狀況ヲ學校ノ種類ニ依リ區別シテ記述スヘシ
一 教員檢定及講習
小學校教員檢定及講習ノ狀況ヲ記述スヘシ

一 教科用圖書

教科用圖書ノ適否、需要供給ノ關係、其ノ他教科用圖書ニ係ル狀況ヲ記述スヘシ

一 府縣會、郡會及市町村會
學事ニ係ル職事ノ概況ヲ記述スヘシ

一 教育會
組織並ニ事業ノ概況ヲ記述スヘシ

一 學事關係職員及學事視察
學事關係職員ノ狀況等ヲ記述シ又廳、府縣視學官、同視學、郡視學等ノ學事ヲ視察シタル狀況ヲ記述ス
ヘシ

一 學事獎勵
學事獎勵ノ狀況ヲ記述スヘシ

一 將來學事施設上須要ノ件
以上ノ外學事ニ關シ特ニ申報スヘキ事項アルトキハ適宜記述スヘシ

右諸項ハ毎統計年度ノ調査ニ依リ翌年度六月三十日限申報スヘシ

一 公學費及資産
公立學校等ノ歲出入、學校基本財産及其ノ積立ノ方法其ノ他學校等ノ維持ニ係ル狀況ヲ記述スヘシ

一 教育資金
教育資金使途ノ狀況ヲ記述スヘシ

一 市町村立小學校教員加俸資金
市町村立小學校教員加俸令ニ依リ加俸ヲ給與シタル狀況ヲ記述スヘシ

校學中										種別		園稚幼屬附		數兒日 童々缺 平均席		發兒日 童々出 平均席			
卒業者	入學者		入學志願者		生徒		教員		學	種	保 育 滿 期	幼 兒	保 姆	高 等	尋 常	高 等	女	男	
	實科	補習科	實科	補習科	實科	補習科	實科	補習科											無資格
										道廳府縣立									
										郡									
										立市									
										立町村立									
										私立									
										計									

101

校學小屬													
者業卒				兒入 童學		童兒				教員 其他ノ		導正教 員	
尋常	補習	高等	尋常	尋常	高等	尋常	高等	補習	尋常	尋常	高等	尋常	高等
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女

100

種別	六學級		七學級		八學級		九學級		十學級		十一學級		十二學級		合計	備考
	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立	私立		
正教科																
補習科																
合計																

二 加設科目ヲ課スル市町村立私立小學校表

種別	裁縫		裁縫手工		手工		農業		商業		手工農業		手工商業		農業商業		手工農業商業		英語		合計	備考		
	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立	私立	市町村立	私立				
正教科																								
補習科																								
合計																								

三 市町村立小學校教員俸給別表

本科正教員 准教員 專科正教員 本科正教員 准教員 專科正教員

備考	年度末月俸額總計	
	女	男

四 市町村立小學校授業料表

備考	種別	尋常	高等	授業料多寡及平均			年度内三月一日ニ於ケル授業料月額總計	同上ニ對スル兒童總數	授業料免除兒童全額免除一部免除
				最多月額	最寡月額	平均月額			

五 公立中學校高等女學校專門學校實業學校生徒卒業後ノ狀況表

備考	種別	中學校	高等女學校	專門學校	工業學校	農業學校	商業學校	商船學校	徒弟學校	何々	入リシ者	不詳ノ者	死亡ノ者	合計

六 小學校教員檢定及免許狀授與人員表

備考	種別	正教員				准教員				合計	出檢	試驗	者	無試驗	合格	者	免許狀受領人員	
		正小學校教員	尋常小學校教員	本科小學校教員	正小學校教員	小學校准教員	尋常小學校教員	准常小學校教員	合計									
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					

七 學齡兒童中盲啞者表

備考	種別	人		員		同上ノ内學校ニ於テ修業スル者	
		男	女	男	女	男	女

種別	備考															
	入	收	合	修	新	消	器	圖	借	生						
敷地坪數	國庫補助	府縣補助	郡費補助	雜收入	學校基本財産 リ生ナル收入	寄附金	保業料	授業料	其他ノ諸費	修繕費	新營費	消耗品費	器具費	圖書器械本費	借地借家費	生徒給費
小學校																
尋常高等學校																
師範中學																
高等專門學校																
實業學校																
各種學校																
幼稚園圖書館其他總計																

二 公學資產表

名稱	備考									
	其他物品價額	建物	土地	金	器具	圖書	家屋	附屬地	敷地	家屋坪數
府縣都市 町村立ノ 區別	坪數	坪數	坪數	額	額	額	額	坪數	坪數	其他
公立諸學校幼稚園圖書館收支表										
授業料										
寄附金										
基本財産 ル收入										
國庫府縣郡費										
其他學校 ニ屬スル收入										
合計										
經常費臨時費合計										

三 公立諸學校幼稚園圖書館收支表

備考

四 教育資金表

備考	合	預	公	貸付金額				種別	金額
				市	町	村	町		
備考	合	預	公	町村學校組合				種別	金額
				町村學校組合	町村學校組合	町村學校組合	町村學校組合		
備考	合	預	公	債計				種別	金額
				債計	債計	債計	債計		

五 市町村立小學校教員加俸資金收支表

備考	入	收	國庫補助金	府縣補助金	資金ヨリ生スル収入	前年度繰越金	合	出	支	種別	金額
備考	入	收	國庫補助金	府縣補助金	資金ヨリ生スル収入	前年度繰越金	合	出	支	種別	金額
備考	入	收	國庫補助金	府縣補助金	資金ヨリ生スル収入	前年度繰越金	合	出	支	種別	金額

六 市町村立小學校教員加俸表

備考	合	計	准	正	種	別	年功加俸	多級別	特別	種別	金額
備考	合	計	准	正	種	別	年功加俸	多級別	特別	種別	金額
備考	合	計	准	正	種	別	年功加俸	多級別	特別	種別	金額

七 市町村立小學校及公立實業補習學校教員恩給基金並恩給收支表

備考	恩給	給	基	金	種	別	金額	人員	恩給	給	金	種	別	金額	人員
備考	恩給	給	基	金	種	別	金額	人員	恩給	給	金	種	別	金額	人員
備考	恩給	給	基	金	種	別	金額	人員	恩給	給	金	種	別	金額	人員

備考	合	計	合	計

八 府縣立師範學校公立學校職員國庫納金及公費支出表

種別	府縣立師範學校		公立學校職員納金		計	種別	退職給與金	
	府縣立師範學校	町村納金	府縣立師範學校及公立學校職員納金	町村納金			府縣立師範學校	金額
國庫	府縣立師範學校					府縣立師範學校		
納金	公立中學校					公立中學校		
金	公立高等女學校					公立高等女學校		
	公立專門學校					公立專門學校		
	公立實業學校					公立實業學校		
	其他ノ公立學校					其他ノ公立學校		
合	計				計	計		

學事年報諸表樣式說明

甲號表

一 第一學事統計表

學齡兒童

學齡兒童ハ本籍ト寄留トヲ問ハス現住人中年度末ニ於テ年齡六歲一月ヨリ滿十四歲マテノ兒童ノ數ヲ揭クヘシ但シ年齡八月ヲ以テ計算スヘシ例セハ明治三十三年度末調査ニ於テハ明治二十年四月生ヨリ同二十八年三月生マテノ現員ヲ揭クルモノトス

既ニ就學ノ始期ニ達シタル者ハ學齡兒童中其ノ年度内四月ニ於テ六歲一月以上ノ兒童ノ數ヲ揭クヘシ例セハ明治三十三年度末調査ニ於テハ明治二十年四月生ヨリ同二十七年四月生マテノ現員ヲ揭クルモノトス
不就學者中癡癩、白痴、不具廢疾、病弱及發育不完全ノ者ハ疾病ノ欄ニ揭クヘシ
小學校令第十二條ニ依リ義務免除ヲ受ケタル町村ニ居住スル兒童ニシテ不就學ノ者ハ免除ノ部其ノ他ノ欄ニ揭クヘシ

未タ就學ノ始期ニ達セサル者ハ學齡兒童中其ノ年度内四月ニ於テ未タ六歲一月ニ達セサリシ者ノ現員ヲ揭クヘシ例セハ明治三十三年度末調査ニ於テハ明治二十七年五月生ヨリ同二十八年三月生マテノ現員ヲ揭クルモノトス
就學歩合ノ計算ハ單位以下二位ニ止メ四捨五入スヘシ

小學校

學校ハ年度末現在ノ數ヲ揭ケ分教場アルトキハ尋常小學校若ハ高等小學校ノ全科ヲ置クモノト其ノ一部ヲ置クモノトヲ區別シ適宜ノ符號ヲ付スヘシ又補習科ヲ置クモノハ補ノ字ヲ付シ私立小學校中代用ニ係ルモノハ代ノ字ヲ付シ區別シテ之ヲ揭クヘシ其ノ教員、兒童、入學兒童、卒業者亦同シ
小學校令施行規則第三十四條ニ依ル學校ハ其ノ設立ノ區別、本校、分教場ヲ區別シ各其ノ數ヲ備考ノ欄ニ揭クヘシ
學級ハ年度内三月一日ノ現在數ヲ揭クヘシ
教員ハ年度末ノ人員^{公立學校ニ在リテハ休職者ヲ除ク}ヲ揭ケ尋常高等小學校ノ教員ニシテ其ノ受持兩教科ニ涉ル者ハ教授時數ノ多キ方ニ揭ケ其ノ時數同シキトキハ高等ノ方ニ揭クヘシ市町村立小學校教員ニシテ他ヨリ兼ヌル者ハ朱書ヲ以テ揭クヘシ又代用教員中小學校教員免許狀ヲ有スル者アルトキハ適宜ノ符號ヲ付シ區別

別シテ掲クヘシ

兒童ハ學籍ニ在ル者ニシテ年度内四月一日ヨリ三月一日ニ至ル間全ク出席セサル者ヲ除キ年度内三月一日ノ現員ヲ掲クヘシ

入學兒童ハ年度内ニ始メテ第一學年ニ入學シタル者ノ總數ヲ掲クヘシ
卒業者ハ年度内ニ卒業シタル者ノ總數ヲ掲クヘシ

兒童、入學兒童、卒業者ノ中外國人ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

日々出席兒童平均數ハ年度内ニ於ケル日々ノ出席兒童數ヲ通算シ年度内ニ於ケル總教授日數ヲ以テ除シタル數ヲ掲クヘシ但シ補習科ニ係ルモノハ之ヲ除クヘシ又計算ハ單位以下二位ニ止メ四捨五入スヘシ

日々缺席兒童平均數ハ年度内ニ於ケル日々ノ缺席兒童數ヲ通算シ年度内ニ於ケル總教授日數ヲ以テ除シタル數ヲ掲クヘシ但シ補習科ニ係ルモノハ之ヲ除クヘシ又計算ハ單位以下二位ニ止メ四捨五入スヘシ

幼稚園

園、保姆、幼兒、保育滿期ハ總テ小學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ

盲啞學校

學校、教員、生徒、卒業者ハ總テ小學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ但シ生徒中普通及技藝ノ兩科ヲ修ムル者ハ主タル一方ニ於テ適宜ノ符號ヲ付シテ掲クヘシ卒業者亦同シ

小學校ニ類スル各種學校

小學校ニ類スル各種學校ハ學校ノ目的及學科程度等小學校ニ準スヘキモノヲ掲ク學校、教員、生徒、第一學事統計表中學齡兒童及小學校ニ係ルモノハ市ニ在リテハ各市ニ區別シ町村ニ在リテハ各々合算シ

テ掲クヘシ但シ町村組合、町村學校組合又ハ其ノ區ニ於テ設置スル小學校ニ係ルモノハ其ノ學校ノ所在地ニ依リ町又ハ村ノ欄ニ掲クヘシ

第二學事統計表

師範學校

學校ハ本科生徒ノ男女別ニ依リ年度末現在ノ數ヲ教員ハ年度末ノ人員休職者ヲ除ク又教諭助教諭ニアラサル教員中主トシテ附屬小學校ノ教授ヲ擔當スル者アルトキハ本校ニ計入セスシテ附屬小學校教員ノ部ニ掲クヘシ又教員中其ノ學校職員若ハ他ヨリ兼ヌル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲クヘシ

其ノ他ノ教員中師範學校教員免許狀ヲ有スル者アルトキハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

生徒ハ年度内三月一日ノ現員ヲ掲ケ入學志願者ハ其ノ年度ニ於テ入學セシムル爲行ヒタル第一學年生徒募集ニ應シタル者ノ數ヲ掲ケ入學者ハ年度内ニ第一學年ニ入學シタル者ノ數ヲ掲ケ卒業者ハ年度内ニ卒業シタル者ノ數ヲ掲クヘシ但シ私費ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

附屬小學校ノ學校、教員、兒童、入學兒童、卒業者、日々出席兒童平均數、日々缺席兒童平均數ハ第一學事統計表中小學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ但シ教員中本校職員又ハ他ヨリ兼ヌル者アルトキハ本校ノ例ニ準シテ掲クヘシ

中學校

附屬幼稚園ハ第一學事統計表中幼稚園ノ例ニ準シテ掲クヘシ
中學校
學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、入學志願者、入學者、卒業者ハ師範學校ノ例ニ準シ教員ハ年度末ノ人員公立學校ニ在リテハ休職者ヲ除クヲ掲ケ中學校教員免許狀ヲ有スル者ハ有資格ノ欄ニ其ノ他ノ教員ハ總テ無資格ノ欄ニ掲クヘシ但シ公立學校教員中其ノ學校職員若ハ他ヨリ兼ヌル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲クヘシ又生

徒、入學者、卒業者ノ中外國人ニ係ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
高等女學校

學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、入學志願者、入學者、卒業者ハ師範學校ノ例ニ準シ教員ハ中學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ但シ無資格教員中小學校本科正教員ノ免許狀ヲ有シ第二學年以下ノ教授ヲ擔任スル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ又生徒、入學者、卒業者ノ中外國人ニ係ル者ハ中學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ

專門學校

專門學校ハ醫學、藥學、政治學、法律學、經濟學、文學倫理、哲學、教育、語學、史學等ヲ含ム但シ中學校ノ學科程度ヨリ高等ナルモノ理學、物理、化學、博物、數學等ヲ含ム但シ中學校ノ學科程度ヨリ及シ他ノ學科ヨリ高等ナルモノヲ專門トシテ授クルモノヲ掲クヘシ
學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、入學志願者、入學者、卒業者ハ師範學校ノ例ニ準シ教員ハ年度末ノ人員公立學校ニ在リテハ休職者ヲ除クヲ掲クヘシ但シ公立學校教員中其ノ學校職員若ハ他ヨリ兼ヌル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲クヘシ又生徒、入學者、卒業者ノ中外國人ニ係ル者ハ中學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ

實業學校

學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、入學志願者、入學者、卒業者ハ師範學校ノ例ニ準シ教員ハ專門學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ但シ其ノ學校中甲種實業學校ニ乙種實業學校ノ學科ヲ併置シタルモノニ在リテハ甲種學校ノ欄ニ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
商業學校ニ商船學校ノ學科ヲ併置シタルモノニ在リテハ學校、教員、生徒、入學志願者、入學者、卒業者トモ適宜ノ符號ヲ付シテ各々當該ノ部ニ掲クヘシ但シ其ノ教員中商業學校ノ教科ト商船學校ノ教科トヲ教授スル者アルハ其ノ教授時數ノ多キ方ニ掲ケ其ノ時數同シキハ商業學校ノ部ニ掲クヘシ
工業學校ニ徒弟學校ノ學科ヲ併置シタルモノ又ハ實業補習學校中工業、農業、商業、水産又ハ商船ノ二

學科若ハ二學科ヲ併置シタルモノニ在リテハ前項ノ例ニ準シテ掲クヘシ
生徒、入學者、卒業者ノ中外國人ニ係ル者ハ中學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ
蠶業學校、山林學校、獸醫學校、水産學校等ニ係ルモノハ農業學校ノ部ニ掲クヘシ
農業學校、商業學校、商船學校中甲種學校ノ程度ヨリ高キモノハ總テ甲種ノ部當該欄内ニ於テ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
工業學校中明治三十二年省令第八號第十四條ニ依リ設置シタル學校ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

各種學校

中學校、高等女學校ニ類スル各種學校ハ學校ノ目的及學科程度等中學校又ハ高等女學校ニ準スヘキモノヲ掲ケ其ノ他ノ各種學校ハ小學校、中學校又ハ高等女學校ニ類セス且專門學校、實業學校等ニアラサル學校ヲ掲クヘシ
學校ハ年度末現在ノ數ヲ掲ケ生徒、卒業者ハ師範學校ノ例ニ準シ教員ハ專門學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ又生徒、卒業者ノ中外國人ニ係ル者ハ中學校ノ例ニ準シテ掲クヘシ

圖書館

館、圖書冊數ハ年度末ノ現在數ヲ掲ケ開館日數、閱覽人員ハ年度内ニ於ケル總日數及總人員ヲ掲クヘシ
學校等ニ附屬スル圖書館ト雖モ公衆ノ閱覽ヲ許スモノハ總テ之ヲ計入スヘシ但シ閱覽人員中ニハ本校職員及生徒ハ之ヲ算入スヘカラス

第二學事統計表中町村組合若ハ町村學校組合ノ設置ニ係ルモノハ町村立ノ欄ニ掲クヘシ
乙號表

一 學級別市町村立私立小學校表

年度内三月一日ノ現在ニ依リ掲クヘシ

尋常高等小學校ハ其ノ全校ノ學級數ニ依リテ掲ケ更ニ之ヲ尋常高等ニ分子尋常小學校高等小學校ノ部ニモ朱書ヲ以テ掲クヘシ

十三學級以上ノ學校ニ在リテハ一學級ヲ加フル毎ニ區別シテ空欄ノ部ニ掲クヘシ
分教場ニ係ルモノハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

補習科ノ學級數ハ計入スヘカラス但シ補習科ノ教授時間ヲ正教科ノ教授時間内ニ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

二 加設科目ヲ課スル市町村立私立小學校表
年度末ノ現在ニ依リ掲クヘシ

尋常高等小學校ニ係ルモノハ尋常高等ニ分子テ掲ケ又裁縫及裁縫手工ノ欄ニハ高等小學校ニ係ルモノハ掲クヘカラス

英語ノ欄ニハ單ニ英語ヲ課スル學校ヲ掲ケ英語ト其ノ他ノ科目トヲ併セ課スル學校ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

北海道ニ在ル尋常小學校ニシテ農業商業等ヲ教授スルモノハ各々其ノ學科ノ區別ニ從ヒ當該欄ニ掲クヘシ

補習科ノ欄ニハ補習科ノ教科目中ニ本表ニ所謂加設科目アルモノハ總テ其ノ數ヲ掲クヘシ

三 市町村立小學校教員俸給別表
月俸額別人員ハ年度末ノ現員休職者ヲ除クニ就キ之ヲ掲クヘシ
最多月額、最寡月額ハ年度末ニ於ケル各教員ノ月俸中最多額及最寡額ヲ掲ケ其ノ平均月額ハ年度末ニ於ケル各教員ニ對スル月俸ノ總額ヲ其ノ教員數ヲ以テ除シタル額ヲ掲クヘシ

明治三十三年省令第十四號第四百八十八條但書第四百九十九條第五百五十條第六十六條ニ依ルモノニシテ掲クヘキ當該欄ナキトキハ其ノ俸給額ノ欄ヲ設ケテ掲ケ同第五百五十一條ニ依ルモノハ合算シテ掲クヘシ

本表ハ全管内ニ係ルモノ、外更ニ各市ニ區別シテ調製スヘシ

四、市町村立小學校授業料表
授業料ヲ徴收スル學校ニ就キ年度内三月一日ノ現在數ヲ掲クヘシ但シ尋常高等小學校ニ係ルモノハ尋常高等ニ分子各々適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ又補習科ニ係ルモノハ計入スヘカラス

授業料最多月額、最寡月額ハ年度内三月一日ニ於ケル兒童ノ授業料中最多額及最寡額ヲ掲クヘシ但シ明治三十三年省令第十四號第四百七十九條第八十條ノ規定ニ依リ授業料ヲ増減シ又ハ其ノ一部ヲ免除シタルモノハ之ヲ掲クヘカラス

授業料平均月額ハ年度内三月一日ニ於ケル各兒童ノ授業料月額總計ヲ授業料ヲ納ムル兒童ノ總數ヲ以テ除シタル額ヲ掲クヘシ

授業料免除兒童ハ年度内三月一日ニ於ケル現員ヲ掲クヘシ
本表ハ全管内ニ係ルモノ、外更ニ各市ニ區別シテ調製スヘシ

五 公立中學校高等女學校專門學校實業學校生徒卒業後ノ狀況表
前年度内ニ卒業シタル者ニ就キ次年度末ノ現況ヲ掲クヘシ但シ一人ニシテ二種以上ノ事項ニ涉ル者アルトキハ適宜ノ符號ヲ以テ各當該欄内ニ於テ區別シテ掲ケ合計ノ部ニハ實人員ヲ掲クヘシ

六 小學校教員檢定及免許狀授與人員表
年度内ニ檢定ヲ了シタル者ノ總數ヲ掲クヘシ

師範學校本科簡易科ノ卒業生ニシテ免許狀ヲ受領シタル者ノ數ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

七 學齡兒童中盲啞者表

年度末ニ於ケル現員ヲ掲クヘシ

八 學校醫表(第一)

年度内三月一日ニ於ケル學校醫ノ現員並其ノ擔任セル學校數ヲ掲ケ其ノ手當年額ハ現員ニ對スル年額ヲ掲クヘシ但シ日當ヲ給スル者アルトキハ年度内出勤日數ヲ概定シ之ヲ日當額ニ乘シタルモノヲ掲クヘシ又一人ニシテ二校以上ニ從事スル者ハ各校一人トシテ掲クヘシ又分校ハ一學校トシテ計入スルヲ要ス

人員中手當ヲ給セサルモノハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ

九 學校醫表(第二)

學校醫ノ資格ニ基キ年度内三月一日ニ於ケル其ノ擔任ノ學校數、生徒又ハ兒童數、年度内四月一日ヨリ三月一日ニ至ル視察回数ニ依リ區別シテ各人員ヲ掲クヘシ但シ一校ニシテ二人以上ノ學校醫ヲ置キタル場合ニ在リテハ擔任ノ生徒又ハ兒童ハ其ノ學校醫ノ數ヲ以テ生徒又ハ兒童ノ總數ヲ除シタル數ニ依リ掲クヘシ

醫術開業免狀ヲ有スル者ハ明治十六年布告第三十五號醫師免許規則第二條又ハ第四條ニ依リ該免狀ヲ有スル者ヲ掲クヘシ但シ第四條ニ依ル者ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ又分校ハ一學校トシテ計入スルヲ要ス

擔任ノ最多學校數、最多生徒又ハ兒童數ヲ備考ノ欄ニ掲クヘシ

十 師範學校中學校高等女學校實業學校生徒學年別表

年度内三月一日ノ現在生徒ニ就キ各學科ニ依リ各校各別ニ掲ケルモノニシテ一學校ニシテ本校、分校、附屬學校等ノ區分アルモノハ又各別ニ掲クヘシ但シ師範學校、實業學校ニ就キテハ男女ヲ區別シ又師

丙號表

範學校ノ豫備科、教員講習科、保姆講習科ニ係ルモノハ掲クヘカラス
本表ニハ實業補習學校ニ係ルモノハ掲クヘカラス

一 公私立諸學校表

學校ハ年度末ノ現在ニ依リ各校各別ニ掲ケルモノトシ一學校ニシテ本校、分校、附屬學校等ノ區分アルモノハ又各別ニ掲クヘシ但シ小學校ニ係ルモノハ之ヲ掲クヘカラス

學科ハ年度内三月一日ノ現在ニ依リ師範學校、中學校、高等女學校、專門學校、實業學校等ニシテ二種以上ノ學科課程ノ設ケアルモノハ各別ニ之ヲ掲ケ實業學校中農業學校、商業學校、商船學校ニ就キテハ甲種若ハ乙種ナルコトヲ附記シ工業學校、農業學校、商業學校、商船學校中更ニ高等ナル學校ニ係ルモノハ適宜ノ符號ヲ付スヘシ

各種學校ニ在リテハ其ノ授ケル學科目ヲ列記スヘシ但シ五科目以上ヲ授ケルモノハ其ノ重ナル五科目ヲ掲ケ其ノ他ハ外幾科目ト附記スヘシ

教員ハ年度末ノ人員公立學校ニ在リテハ休職者ヲ除クヲ掲クヘシ但シ公立學校教員中其ノ學校職員若ハ他ヨリ兼ヌル者アルトキハ朱書ヲ以テ掲クヘシ又外國人ハ其ノ國名ヲ附記スヘシ

學級數、生徒ハ年度内三月一日ノ現在數ヲ掲クヘシ
授業料及經費ハ私立學校ニ係ルモノ、ミナ掲クヘシ

學校長ノ欄ニハ學校長ヲ置カサル學校ニ就キテハ首席教員ヲ掲ケ適宜ノ符號ヲ以テ學校長ト區別スヘシ

二 公私立幼稚園表

幼稚園ハ年度末ノ現在ニ依リ各園各別ニ掲クヘシ

保姆ハ年度末ノ人員ヲ掲ケ組數、幼兒ハ年度内三月一日ノ現在數ヲ掲ケ保育料、經費、園長ハ前表ノ例ニ準シテ掲クヘシ

三 公私立圖書館表

圖書館、圖書ハ年度末ノ現在ニ依リ各館各別ニ掲ケ學校等ニ附屬スル圖書館ト雖モ公衆ノ閱覽ヲ許スモノハ總テ之ヲ掲クヘシ但シ學校等ニ附屬スル圖書館ニハ適宜ノ符號ヲ付スヘシ
閱覽料、經費ハ私立ニ係ルモノ、ミチ掲クヘシ

丙號表中明治三十三年勅令第三百二十六號ニ依リ設立シタル學校、幼稚園、圖書館ニハ適宜ノ符號ヲ付スヘシ
丁號表

一 公學費表

年度内ニ於テ支出シ收入シタルモノヲ掲ケ經費支辨ノ區別ニ從ヒ府縣、郡、市、町村ノ四表ニ分チテ掲クルモノトシ表題ニ府縣若ハ郡若ハ市若ハ町村ト記入スヘシ但シ市ハ各市ニ區別シテ掲クヘシ
學校、幼稚園、圖書館等ニシテ他ノ學校ノ附屬ニ係ルモノハ總テ之ヲ本校ノ部ニ計入スヘシ但シ師範學校訓導ノ俸給ハ教諭助教諭俸給ト區別シ適宜ノ符號ヲ付シテ掲クヘシ
甲種實業學校ニ乙種實業學校ノ學科ヲ併置シタルモノニシテ其ノ收支ノ分割シ難キモノハ甲種ノ欄ニ於テ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ
圖書館ノ下「其ノ他」ノ部ニハ教員檢定、圖書審查、教員講習、學務委員ニ關スルモノ、如キ學校、幼稚園圖書館ノ各部ニ屬セサルモノヲ掲クヘシ且此部ノ費額ハ備考ノ欄ニ於テ別ニ其種類ヲ分チ各總額ヲ列記スヘシ
師範學校、中學校、高等女學校ニ係ルモノニシテ教諭助教諭訓導ニアラサル教員ノ俸給ハ代用教員俸給

ノ欄ニ掲クヘシ但シ當該學校教員免許狀ヲ有スル者アルトキハ其俸給ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ掲クヘシ雜給ハ事務雇員手工農業等ニ關スル職工農夫、小使門番ノ給料及臨時使役ノ人夫賃等ヲ掲クヘシ
生徒給費ハ生徒ニ給シタル學資金額ヲ掲クヘシ又貸費金額ハ適宜ノ符號ヲ付シ區別シテ本欄ニ掲クヘシ
新營費ノ内ニハ敷地買入代チモ計入スヘシ
其ノ他ノ諸費ハ前種別ノ欄ニ入ラサル總テノ費額ヲ掲ケ恩給ニ關スル府縣、郡、市、町村ノ納金亦茲ニ計入スヘシ

收入ノ部ニハ尋常高等小學校ノ授業料ハ之ヲ尋常高等ニ區別シテ記入シ又米穀其ノ他ノ物品等ニシテ金額ニ換算シ決算シタルモノハ總テ之ヲ計入スヘシ
金員ノ計算ハ四捨五入シテ圓ニ止ムヘシ

二 公學資產表

年度末ノ現在ニ依リ前表ノ例ニ準シ府縣、郡、市、町村ノ四表ニ分チ市ハ各市ニ區別シテ掲ケ又附屬學校等ニ係ルモノハ同表ニ準シテ掲クヘシ圖書館ノ下「其ノ他」トアル亦同シ
家屋坪數ニハ二階三階等ノ坪數ヲモ合算シテ掲クヘシ
土地、家屋、圖書器械標本、器具ノ價格ハ時價ヲ以テ掲クヘシ屋外體操場ハ敷地トシテ計入スヘシ
學校基本財産中前種別ノモノト重複スルモノ亦之ヲ掲クヘシ又金額ノ中ニハ公債證書其ノ他ノ有價證券モ時價ヲ以テ計入スヘシ
金員及坪數ノ計算ハ四捨五入シテ圓又ハ坪ニ止ムヘシ

三 公立諸學校幼稚園圖書館收支表

年度末現在ノ學校、園、館ニ就キ各別ニ年度内ニ收入シ支出シタルモノヲ掲ケ其ノ收入ニ關スルモノハ公學費表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ但シ實業學校ニ在リテハ學校ニ屬スル收入ノ中製作品又ハ收穫物賣拂代價ヲ區別シテ掲ケヘシ

金員ノ計算ハ四捨五入シテ圓ニ止ムヘシ
本表ニハ小學校ニ係ルモノハ掲ケヘカラス

四 教育資金表

年度末ノ現在ニ依リ掲ケヘシ

公債證書ノ欄ニハ其ノ購入金額ヲ掲ケヘシ且朱書ヲ以テ券面ノ金額ヲ附記スヘシ

五 市町村立小學校教員加俸資金收支表

年度内ニ收入シ支出シタルモノヲ掲ケ公債證書ハ前表ノ例ニ準シテ掲ケヘシ

六 市町村立小學校教員加俸表

年度末ニ於ケル現職者ニ就キ計算シテ掲ケヘシ但シ年功加俸又ハ國庫補助法第六條ニ依リ加俸ヲ受ケ尙特別加俸ヲ受ケル者ハ年功加俸又ハ國庫補助法第六條ニ依ル加俸及特別加俸ノ兩欄ニ掲ケ特別加俸ノ欄ニハ適宜ノ符號ヲ以テ單ニ特別加俸ヲ受ケル者ト區別シテ掲ケヘシ

年功加俸ヲ受ケ尙加俸令第十一條ニ依リ加俸ヲ受ケル者ハ其ノ各欄ニ掲ケヘシ但シ加俸令第十一條ニ依リ受ケル差額ハ年功加俸ノ欄ニハ計入スヘカラス

七 市町村立小學校及公立實業補習學校教員恩給基金並恩給收支表

年度内ニ收入シ支出シタルモノヲ掲ケヘシ

恩給基金前年度歳入剩餘金繰入ノ欄ニハ前年度ニ於ケル恩給ニ關スル收入剩餘金ノ中特ニ恩給基金ニ組入レタルモノアルトキハ其ノ金額ヲ掲ケヘシ

同基金前年度末現在高公債證書ノ欄ニハ其ノ購入金額ヲ掲ケ且朱書ヲ以テ券面ノ金額ヲ附記スヘシ
恩給ニ關スル收入恩給基金利子ノ欄ニハ公債利子及預金利子ヲ合セテ掲ケヘシ
同收入前年度歳入剩餘金繰入ノ欄ニハ前年度ノ收入剩餘金ヲ基金ニ組入レスシテ翌年度ノ支出ニ充ツヘキ目的ヲ以テ收入ノマ、繰越シタル金額ヲ掲ケヘシ

恩給ニ關スル支出中退隱料、扶助料ノ欄ニハ年度内ニ於テ新ニ支給ヲ始メタルモノト前年度以前ヨリ引續キ支給スルモノトヲ問ハス總テ合算シタル金額及其ノ人員ヲ掲ケヘシ但シ職務ノ爲傷病ヲ受ケ疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル者ニ係ル金額及其ノ人員ヲ區別シ朱書ヲ以テ掲ケヘシ
同支出中一時給養金ノ欄ニハ明治二十三年法律第九十號第十一條第二項ニ依リ支給シタル金額及其ノ人員ヲ掲ケヘシ

八 府縣立師範學校公立學校職員國庫納金及公費支出表

年度内ニ納入シ及支出シタル總數ヲ掲ケヘシ

○學事年報報告方

明治三十四年二月廿二日
奈良縣訓令甲第八號

郡 役 所
市 役 所
縣 立 學 校

學事年報ハ明治三十四年(二月)文部省訓令第一號ニ據リ該當ノ事項ヲ取調ヘ左記期限ノ區別ニ從ヒ報告スヘシ
學事年報ニ關スル從前ノ規定ハ凡テ之ヲ廢止ス

- 一 甲號、乙號、丙號表及之ニ關スル取調條項ハ每年五月三十一日限
- 一 丁號表及之ニ關スル取調條項ハ每年十月三十一日限

第六條 稅外收入及各屬ニ令達シタル經費ノ收支命令ハ之ヲ其屬長ニ委任ス

- 第七條 本則ニ於テ各屬ト稱スルモノハ左ノ如シ
 - 一 郡市役所
 - 一 警察署
 - 一 縣立學校
 - 一 農事試驗場

第八條 各屬ニ於テ毎年度歳入歳出金ヲ出納スルハ翌年度五月十日限リトス

第九條 各屬ノ出納ニ關スル事務ハ翌年度五月三十一日限リ完整スヘシ

第十條 各屬ニ於テ出納閉鎖期後全年七月末日迄ニ前年度ノ課納還付課拂追給ヲ要スルモノヲ發見シタルトキハ事由ヲ詳具シ時々縣廳ニ申請スヘシ其課拂返納及徴收洩ノ收入ニ係ルモノハ時々縣廳ニ送納スヘシ

第二章 豫算

第十一條 知事官房内務部各課警察部ハ毎年度其所管ニ屬スル收入支出ヲ調査シ豫定經費要求書并ニ收入豫算調書ヲ作り前年度七月三十一日迄ニ内務部第一課ニ送付スヘシ

- 左ノ事項ニ付テハ豫メ其計畫書及費用概算書ヲ作り前年度六月三十日迄ニ内務部第一課ニ送付スヘシ
 - 一 新事業
 - 一 繼續事業ノ伸縮廢止

第十二條 豫定經費要求書及收入豫算調書ハ各細節ニ區分シ其算出ノ基ク所及前年度豫算ニ對スル増減并ニ其理由ヲ附スヘシ

第十三條 内務部第一課ハ豫定經費要求書及收入豫算調書ヲ審査シ意見ヲ付シ前年度九月二十日迄ニ知事

ノ決裁ヲ受ケ全十月十日迄ニ歳入歳出豫算ヲ調製スヘシ

第十四條 豫算ノ告示アリタルトキハ内務部第一課ハ關係部課ニ令達ノ手續ヲナスヘシ

第十五條 豫算ノ追加更正ヲ要スルトキハ第十一條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス
但繰越ノ爲メ豫算ノ追加更正ヲ要スルモノハ非常ノ場合ノ外遲クトモ其年度三月十五日迄ニ内務部第一課ニ送付スヘシ

第十六條 知事官房内務部各課警察部ニ於テ豫備費ノ支出ヲ要スルハ豫定經費要求書ニ準シ内務部第一課ニ要求スヘシ

内務部第一課ハ前項ノ要求ヲ審査シ知事ノ決裁ヲ受クヘシ

第十七條 豫備費ヨリ支出シタル費途ノ金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第三章 縣出納吏

第十八條 縣出納吏ヲ常時及臨時ノ二種トス
左ノ者ヲ以テ常時縣出納吏ニ充ツ

- 一 縣廳ニ在テハ内務部第五課長
- 一 郡役所ニ在テハ會計事務主管ノ科長
- 一 市役所ニ在テハ收入役
- 一 縣立學校ニ在テハ上席書記
- 一 其他ノ各屬ニ在テハ其屬長

臨時現金前渡ヲ受クル官吏々員職員ヲ臨時縣出納吏トス

第十九條 縣出納吏ノ掌ル事務ハ府縣ニ屬スル左ノ現金及有價證券ノ出納并ニ保管トス
一 歳入ノ現金收入

一 歳出ノ現金前渡

一 歳入歳出外ノ現金并ニ有價証券

第二十條 縣出納吏ハ歳入ノ現金收入ヲ爲シタルトキハ縣金庫ニ拂込ムヘシ

第二十一條 縣出納吏現金前渡ヲ受ケタルトキハ知事指定ノ期間内ニ於テ支出計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ支出命令者ニ送付スヘシ

第二十二條 縣出納吏ハ歳入歳出外ノ現金又ハ有價証券ヲ取扱ヒタルトキハ毎月一回其計算書ヲ調製シ知事又ハ各廳長ニ提出スヘシ

第二十三條 縣金庫所在地ニアル縣出納吏ハ其保管ニ屬スル現金ヲ縣金庫ニ依托スヘシ

第二十四條 縣出納吏交替アリタルトキハ在職期間内ニ取扱ヒタル出納事務引繼書一通ヲ作り検査員(明治三十三年内務省令第七號)立會ノ上一通ハ后任者ニ引繼キ他ノ一通ハ后任者連署ノ上知事ニ提出スヘシ

第二十五條 縣出納吏死亡其他ノ事故ニ依リ自カラ引繼書ヲ調製スルコト能ハザルトキハ特ニ知事又ハ各廳長ノ命シタル官吏々員ニ於テ其手續ヲ爲スヘシ

第二十六條 縣出納吏ノ出納事務引繼書ハ提出ノ后之ヲ修正變更スルヲ得ス

第四章 收入

第二十七條 縣稅ノ徵收ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ依ル

稅外ノ收入ハ收入命令者ニ於テ納人ニ對シ納入告知書ヲ發シ之ヲ收納スヘシ

第二十八條 左ノ稅外收入金ハ納入告知書ヲ發セス縣出納吏ニ於テ直接ニ現金又ハ金券ノ收納ヲ爲スコトヲ得

一 政府ヨリノ交付金

二 公債元利金又ハ寄附金

三 懲罰金賠償金手数料授業料滯納處分費及差押金

四 各地ヨリ直送シ來レル現金又ハ金券

第二十九條 納入告知書ニハ納人若シクハ其代理人住所氏名納金額年度番號及納期ヲ記載スヘシ

第三十條 納入告知書ヲ受ケタルモノハ納入告知書ニ現金ヲ添ヘ縣金庫ニ拂込ミ第二十八條ノ納入ヲナスモノハ縣出納吏ニ現金ヲ納付シ其領收證ヲ得テ納金ノ義務ヲ終ルモノトス

第三十一條 縣金庫ニ於テ前條ノ納金ヲ受ケタルトキハ納人ニ領收證書ヲ交付シ領收濟通知書ヲ縣廳又ハ各廳ニ送付スヘシ

第三十二條 納人ニ於テ納入告知書ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ更ニ發付ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十三條 歳入ノ課納過納トナリタル金額アルトキハ收入命令者ニ於テ支出ノ手續ニ依リ下戻ヲナスヘシ

但過年度ニ屬スルモノハ其都度知事ニ申請スヘシ

第五章 支出

第三十四條 經費ノ支出ハ支出命令者ニ於テ縣金庫ニ對シ支出命令ヲ發スヘシ

支出命令者ハ總テ支出命令ヲ發スル前該經費ノ金額ヲ算定シ左ノ事項ヲ調査スヘシ

一 正當ニシテ必要ナルヤ

二 豫算額ニ超過スルヲナキヤ

三 支出科目及所屬年度ヲ誤ルヲナキヤ

四 豫算ヲ以テ定メラレタル目的ニ違フヲナキヤ

五 支出ノ時効ヲ經過シタルヤ否ヤ

第三十五條 支出命令ニハ債主若シクハ其代理人ノ氏名仕拂フヘキ金額年度及番號ヲ記載スヘシ

但支拂科目ノ全一ナルモノハ數人ノ債主ニ對シ集合支出命令ヲ發スルヲ得此場合ニ於テハ別ニ各債主ノ金額氏名表ヲ添付スヘシ

第三十六條 現金前渡ノ支出命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏々員ノ資格氏名前渡ヲ爲スヘキ金額年度及番號ヲ記載スヘシ

第三十七條 支出命令ハ總テ一目毎ニ發スヘシ

第三十八條 支出命令ハ受取人ニ交付シ其領收證ヲ徴シ全時ニ案内支出命令ヲ縣金庫ニ交付スヘシ但數人ノ債主ニ對スル集合支出命令及支出命令ヲ當テタル縣金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ

支出命令ヲ金庫ニ送付シ全時ニ受取人ニ對シテハ支出通知ヲ發スヘシ

第三十九條 收支命令者ハ支出ト全時ニ收入スルヲ得ヘキモノニ關シテハ振替命令ヲ發スルヲ得

第四十條 左ノ經費ノ外ハ當該官吏々員ニ現金ヲ前渡シ正當債主ニ支拂ハシムルヲ得ス
一 直轄工事ニ關スル賃銀

二 遠隔ノ地ニ於テ即時支拂ヲ要スヘキ經費

三 各府所在地外ニ在ル官衙ノ經費

四 警察機密費

前項ノ一號乃至三號ノ前渡金ニシテ一廉金壹百圓以上ハ知事ノ認可ヲ經ヘシ

但全一官吏ニ再渡ノ前渡ヲ爲スルハ前回ノ殘金ヲ併セ計算スルモノトス

第四十一條 旅費ニ限リ概算渡ヲ爲スコトヲ得

此場合ニ於テハ歸還又ハ赴任后五日以内ニ精算ヲ爲スヘシ(三十五年十月卅一日縣令五五號ヲ以テ改正)

第四十二條 囚徒及刑事被告人ニ關スル諸費ノ外ハ經費中ヨリ繰替拂ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 俸給旅費其他公法上縣ノ支出ニ關スル時効ハ年度經過後五ケ年トス

第四十四條 支出命令ヲ現金ト交換スル期限ハ發行ノ日ヨリ十五日以内トス

但出納閉鎖期ニ際シハ特ニ此期限ヲ短縮スルヲ得

第四十五條 縣金庫ハ案内支出命令集合支出命令若シクハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル支出命令ヲ受ケタルトキ其命令合式ナルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ

但各府所屬ノ縣金庫ニ於テハ仕拂月額豫算ノ金額ニ超過セサルヤ否ヤヲ調査スヘシ

第四十六條 縣金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間内ハ支出命令持參人ニ支出命令ト引換ニテ現金ヲ交付スヘシ

但集合支出命令及金庫所在地外ニ在ル債主ニ仕拂ヲ要スル支出命令ニ對シテハ領收證書ト引換ニ現金ヲ交付スヘシ

第四十七條 左ノ場合ニ於テハ事由ヲ支出命令持參人ニ告ケ金庫ニ於テ支出命令ノ執行ヲ拒ムヘシ
一 案内支出命令ノ到着セザルトキ

二 支出命令ト案内支出命令書ト符合セス又ハ汚損シテ照合シ難キトキ

三 支出命令及案内支出命令ノ印影知事ヨリ送付シタル印鑑ニ符合セザルトキ

第四十八條 左ノ場合ニ於テハ受取人ニ於テ其事由ヲ詳悉シ支出命令ノ再發ヲ申請スルヲ得

但第一號第二號ノ場合ニ於テハ當該縣金庫ノ現金未渡ノ證明書ヲ添付シ第三號乃至第六號ノ場合ニ於テハ原支出命令ヲ添付スヘシ

一 支出命令ヲ遺失シタルトキ

二 支出命令ヲ盜取セラレタルトキ

三 支出命令ヲ毀損又ハ汚染シタルトキ

四 案内支出命令ト符合セサルトキ

五 支出命令及案内支出命令ノ印影知事ヨリ送付シタル印鑑ニ符合セサルハ

六 支出命令ノ執行期限ヲ経過シタルトキ

第四十九條 前條ノ場合ニ於テ正當理由アリト認ムルトキハ支命令ヲ取消シ更ニ發付ノ手續ヲ爲スヘシ

支出命令ヲ取消シタルトキハ關係書類ニ其旨ヲ朱記シ檢印ヲ捺捺スヘシ

第五十條 歳出ノ誤拂過拂トナリタル金額アルトキハ支出命令者ハ債務者若シクハ其代理人ニ對シ返納告知書ヲ發シ現金ヲ縣金庫ニ返納セシムヘシ

第五十一條 返納告知書ニハ債務者若シクハ其代理人ノ住所氏名返納セシムヘキ金額年度番號事由及返納ノ期限ヲ記載スベシ

第五十二條 各廟ニ於テ過年度ニ屬スル經費ノ任拂ヲ要スルトキハ其都度知事ニ申請スヘシ

第六章 決算

第五十三條 知事官房内務部各課警察部及各廟ハ其所管ニ屬スル毎年度收入支出額ヲ調査シ決算調書ヲ作

リ左ノ期限ニ依リ之ヲ知事ニ提出スヘシ

一 縣稅收入決算調書ハ前後兩期ニ區分シ前半期分ハ其年十一月二十日限リ後半期分ハ翌年度六月五日限リ

二 賦金其他ノ諸收入及提出決算調書ハ翌年度六月五日限リ(三十五年十月三十一日縣令五五號ヲ以テ改正)

決算調書ハ各目ニ區分シ決算額ハ豫算額ニ對比シ増減ノ事由ヲ説明スヘシ

第五十四條 内務部第五課ニ於テハ各部課各廟ノ決算調書ヲ審査シ歳入歳出決算書ヲ調製シ十月十日限リ知事ノ決裁ヲ受クヘシ

第七章 帳簿

第五十五條 縣廳又ハ各廟ハ原簿補助簿ヲ備ヘ縣ノ計算ニ入ルヘキ一切ノ出納ヲ登記スヘシ

第五十六條 縣出納吏ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ日々保管金(有價証券ヲ含ム)ノ出納ヲ登記スヘシ

- 一 歳入歳出外ノ現金出納簿
- 一 歳入ノ現金出納簿
- 一 前渡ノ現金出納簿

附 則

第五十七條 本則ハ明治三十四年度ヨリ施行ス

但本則ニ抵觸スル令達告示ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○縣會計細則

明治三十四年三月十九日 奈良縣訓令甲第十六號

奈良縣會計細則

第一章 豫算

第一條 各廟ハ毎年度所要ノ經費及稅外收入豫算調書ヲ作り前年度六月三十日迄ニ當廳ニ提出スヘシ

知事官房 内務部 警察所 郡役所 市役所 農事試驗場 警察署 縣立學校 警察分署 縣立醫院 縣立金庫

但規則第十一條第二項ニ屬スルモノハ前年度六月十日限リトス

第二條 各部課ニ於テ豫算ノ合達ヲ受ケタル片ハ各廨ニ配當スヘキモノヲ調査シ年度開始前合達ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ合達ヲ終リタル片ハ其廨名目金額ヲ各部課ヨリ直チニ内務部第五課ニ通知スヘシ

第三條 各廨ニ於テ歳出豫算ノ合達ヲ受ケタル片ハ毎月所要ノ金額ヲ調査シ第一號式甲ニ依リ仕拂月額豫算書ヲ作り合達后十日以内ニ知事ニ提出スヘシ豫算ノ追加更正ノ合達アリタル場合亦同シ

仕拂月額豫算ノ更正ヲ要スルトキハ其時々理由ヲ具シテ知事ニ上申スヘシ

第四條 仕拂月額豫算ハ内務部第五課ニ於テ調査シ第一號式乙ニ依リ縣金庫ニ合達ノ手續ヲ爲スヘシ其増減アルトキ亦同シ

第五條 豫算流用又ハ科目新設ヲ要スルトキハ第二號式ノ調書ヲ添ヘ理由ヲ詳記シ前者ハ所管ノ部課ヨリ關係部課ニ合議シ后者ハ内務部第一課ニ於テ所管ノ部課ヨリ送付ヲ受ケ知事ノ裁決ヲ受クヘシ

第六條 豫備費ヨリ假出シタル費途ハ年度經過后三十日以内ニ精算ヲ遂ケ殘額アルトキハ戻入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二章 縣出納吏

第七條 各廨ノ縣出納吏交替アルトキハ其年月日前任者ノ官職氏名并ニ引繼ヲ爲スヘキ期日ヲ定メ各廨長ヨリ直チニ縣廨ヘ報告スヘシ

第八條 各縣出納吏事務引繼書ハ第三號式ニ依リ調製スヘシ

第九條 縣出納吏交替ノ際ニハ「縣出納吏保管金出納簿」ニ就キ前任者取扱中ノ分ヲ締切リ次行ニ其年月日ヲ記入シ前任及后任縣出納吏署名捺印スヘシ

第三章 收入

第十條 納入告知書ニヨリ税外收入ヲナサントスル片ハ收入調定稟議書ヲ作り收入命令者ノ決裁ヲ經テ第四號及第五號式ノ調定臺帳ヘ登記スヘシ

第十一條 納入告知書ハ調定臺帳ニ基キ第六號式ニ依リ作製シ納入ニ交付スヘシ

縣金庫ニ於テ前項ノ納金ヲ受ケタルトキハ納入告知書ニ年月日ヲ記入捺印シ納入告知書ハ切離シテ縣金庫ニ留メ置キ領收証書ヲ納入ニ交付シ領收通知ヲ縣廨又ハ各廨ヘ送付スヘシ

第十二條 納入告知書ニ依リテ税外收入ヲナサントスル片ハ縣出納吏ハ納入ヨリ納付証ヲ徴シテ現金ヲ收入スヘシ

第十三條 縣出納吏前條ノ收入ヲ爲シタル片ハ出納簿ニ登記ノ上縣金庫ニ委託シ假預リ証ヲ徴スヘシ但縣金庫所在地ニ於テ納入ヨリ現金ヲ納付スルトキハ縣出納吏ハ縣金庫假預リ証ニ引換納付セシムヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ縣金庫ハ第七號式ノ假預証ヲ作り納入ニ交付スヘシ

第十四條 第十二條ノ收入金ハ主任者ニ於テ收入稟議ノ手續ヲナシタル后縣出納吏ハ速ニ第八號式甲ノ拂込書ニ假預証ヲ添付シ縣金庫ニ送付ノ上納入ニ領收証ヲ發付スヘシ

縣金庫ハ拂込書ヲ受ケタル片ハ領收証書ニ年月日ヲ記入捺印シ切離シテ之ヲ縣出納吏ニ交付スヘシ

第十五條 縣出納吏カ歳入歳出外ノ現金又ハ有價証券ヲ受取リタルトキハ保管金出納簿ニ登記シ主任者保管稟議ノ手續ヲ爲シタル後納入ニ第八號式乙ノ領收証ヲ發付シ同時ニ第八號式甲ニ依リ縣金庫ニ保管ヲ依托スヘシ

第十六條 縣出納吏カ歳入ノ現金又ハ歳入歳出外ノ現金ヲ假預証其他ノ金券ヲ以テ縣金庫ニ拂込又ハ拂出ヲ要スル片ハ其裏面ニ何年何月何日拂込又ハ現金引換ノ旨ヲ記シ縣出納吏及主任者之ニ捺印ノ上縣金庫ニ送付スヘシ

第十七條 稅外收入ノ納期ハ別ニ規定アルモノ、外納入告知書到達后五日以内ノ期間ヲ存シ收入命令者ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第十八條 徵稅令書納入告知書及收入ニ關スル稟議報告等ハ總テ毎目別ニ調製スヘシ

第十九條 誤過納金下戻ノ支出稟議及支出命令ハ歲出ト混同セサシムル爲メ誤過納還付ノ旨ヲ記入スヘシ

第二十條 各廳長ニ於テ收入シタル歲入ハ第九號及第十號式ニ依リ一ヶ月毎ニ送納書ヲ作り其所屬縣金庫突合表ヲ添ヘ翌月三日迄ニ知事ニ提出シ直チニ其縣金庫ニ對シ該金ノ回送命令ヲ發スヘシ

但收入金額參千圓以上ニ達シタルトキハ其翌日限り本條ノ手續ヲ爲スヘシ

內務部第五課ニ於テハ前項ノ送納書ヲ本縣金庫ヨリ提出スル所ノ回送金到達通知ニ對查シ收入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十一條 回送又ハ振替命令ヲ發セントスルハ主任者ニ於テ其金額科目金庫名及事由等ヲ詳記シ知事又ハ廳長ノ裁決ヲ受ケヘシ

第二十二條 收入ハ總テ証憑書類ヲ添ヘ第十一號式ノ收入稟議ヲ作り收入命令者ノ決裁ヲ受ケタル上記帳ノ手續ヲナスヘシ

但縣金庫領收濟通知及第二十條送納書ノ餘白ニ稟議ノ要領ヲ朱書シ稟議書ヲ省略スルヲ得

第二十三條 郡市長ニ於テ徵收シタル縣稅及賦金ハ左ノ區分ニ依リ第十二號式ノ收入計算書ヲ作り左記ノ期限ニ報告スヘシ

前半期 自四月一日起 十月十日限り

後半期 自十月一日起 出納閉鎖期后十日限り

內務部第五課ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルハ納金額ノ集計ヲ對查シ別ニ各郡市別徵稅成績表ヲ作り

日以内ニ知事ニ提出スヘシ

第二十四條 過年度誤過納下戻ノ申請書ニハ其年度科目金額算出事項本人住所氏名及誤過納トナリタル事由ヲ詳記スヘシ

第二十五條 警察署同分署ニ於テ營業ト否トヲ問ハス納稅ノ義務ヲ生スル行爲ヲ許可シ又ハ届出ヲ受ケタルトキハ第十三號式ニ依リ速ニ所管郡市長ニ通知スヘシ其廢罷及異動アルハ亦同シ

第二十六條 縣立驅蠱院ニ於テハ毎月入院娼妓ノ出入ヲ調査シ第十四號式ニ依リ翌月五日限り所管郡市長ニ通知スヘシ

第四章 支出

第二十七條 支出命令ヲ發セントスルハ臺帳若クハ關係書類ニ基キ第十五號式ノ支出稟議ヲ作り証憑書類ヲ添附シ支出命令者ノ決裁ヲ受ケヘシ

第二十八條 支出命令及案內支出命令ハ第十六號式ニ依リ調製シ原符ハ發送ノ片之ヲ切離シ縣廳又ハ各廳ニ留置クヘシ

第二十九條 各廳長ハ仕拂月額豫算ニ超過スル支出命令ハ之ヲ發スルヲ得ス但仕拂月額豫算繰越ノ場合ハ此限リニアラス

第二十條 規則第三十八條但書ノ支出通知ハ第十七號式ニ依リ調製スヘシ

但印紙貼用ヲ要スルモノハ支出通知ノ欄外ニ「收入印紙貼用ヲ要ス」ノ印章ヲ捺捺シ領收金額ニ對スル仕譯書ヲ要スルモノハ其旨ヲ付記スヘシ

第三十一條 縣金庫ニ於テ規則第三十八條但書ノ支出命令ヲ受ケタルトキハ支拂ノ上受取人ヨリ第十七號式ノ領收證書ヲ徵シ速ニ支出命令者ニ送付スヘシ

第三十二條 集合支出命令ハ直接拂ノモノト送金拂ノモノトヲ區別シ之ヲ調製スヘシ

集合支出命令ニ添付スル氏名表ハ第十八號式ニ依リ調製スヘシ

第三十三條 支出命令及支出ニ關スル稟議報告等ハ總テ毎目別ニ調製スヘシ

第三十四條 支出命令ニハ支出命令者ノ官印若クハ職印及取扱者ノ檢印ヲ捺捺スル外縣廳ニ在テハ内務部

第五課長各屬ニ在テハ支出命令者自ラ檢印ヲ捺捺スヘシ

支出命令ヲ發付シタルトキハ該稟議書金額ノ上部ニ「支出命令發行濟」幅四分ノ印章ヲ捺捺スヘシ

第三十五條 規則第三十八條但書ノ支出命令ヲ縣金庫ヘ送付スルトキハ第三十二號式ニ準シ帳簿ヲ設ケ領

收ノ証印ヲ徴スヘシ案内支出命令及案内集合支出命令ヲ送付シタルトキ亦同シ

第三十六條 縣立學校職員及郡判任官ノ俸給ニ付國庫納金ヲ要スルトキハ縣金庫ハ其金額ヲ控除シ假預証

ヲ以テ縣出納吏ヘ送付スヘシ

縣出納吏前項ノ送付ヲ受ケタルトキハ國庫ニ納付ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十七條 縣金庫ニ於テ規則第四十八條ニヨリ納人ニ現金未渡ノ証明書ヲ付與シタルトキ又ハ支出命令

ノ執行期限ヲ經過シタルトキハ同時ニ該案内支出命令書ヲ支出命令者ニ返付スヘシ

第三十八條 縣金庫ニ於テ返納告知書ニ依リ現金ヲ納付スル者アリタルトキハ納入告知書ノ例ニ準シ取扱

フヘシ

第三十九條 返納告知書ニヨリ返納金ヲ收入スルルハ其收入稟議ニ誤拂返納ノ旨ヲ記載シ歳入ト區別スヘ

シ

第四十條 各廳長ハ三ヶ月毎ニ第十九號式ニ依リ支出計算書ヲ作り証憑書類ヲ添ヘ翌月十日限り知事ニ報

告スヘシ

但翌年度四月以後出納閉鎖期迄ノ分ハ出納閉鎖期后十日限り報告スヘシ

前項ノ證憑書類ハ決算告示ノ后之ヲ返付スヘシ

第四十一條 内務部第五課ニ於テ前條ノ支出計算書ヲ受ケタルトキハ二十日以内ニ調査ヲ遂ケ若シ不審又

ハ誤謬ト認ムヘキ廉アルトキハ速ニ相當ノ處置ヲナスヘシ

第四十二條 現金前渡ヲ受ケタル者ハ保管ノ爲メ其現金ヲ最寄縣金庫ニ預ケ込ミ預リ証ヲ徴スヘシ

但縣金庫遠隔ノ地ニ在ル者又ハ三日以内ニ債主ニ交付スル場合ハ此限りニアラス

現金前渡金ハ正當債主ノ領收証書ト引換ニ非サレハ交付スルヲ得ス

第四十三條 現金前渡ヲ受ケタルモノハ一ヶ月毎ニ第二十號式ノ支出計算書ヲ作り証憑書類ヲ添ヘ翌月三

日限り前渡ヲ受ケタル縣廳又ハ各屬ニ提出スヘシ

但警察機密費ハ此限りニアラス

第四十四條 現金前渡ノ支出ヲ終了シタルトキハ當該官吏々員ヨリ三日以内ニ精算書ヲ提出シ知事又ハ各

廳長ノ決裁ヲ經テ記帳ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十五條 縣出納吏縣金庫ニ依リシタル歳入歳出外現金ノ拂出ヲ要スルトキハ第二十一號式ニ依リ引出

切符ヲ發スヘシ

第四十六條 年度末ニ於テ歳入歳出外ノ現金ニ殘餘アルトキハ翌年度ノ帳簿ニ轉記スヘシ

第四十七條 過年度支出ノ申請書ニハ其年度科目金額算出事由本人住所氏名及ヒ仕拂未済トナリタル事由

ヲ詳記スヘシ

第五章 決算

第四十八條 毎年度收入支出決算調書ハ左ノ區分ニ依リ調製スヘシ

但各屬ニ於テ支出殘餘金アルトキハ決算書提出ト同時ニ返納ノ手續ヲナスヘシ

一 徵稅收入決算調書

第二十二號式 郡市長提出

二 賦金收入決算調書

第二十三號式 全

- 三 小學校教員恩給基金
市町村納金決算調査
稅外收入及特別會計
收入決算調査
- 四 第二十四號式 全
- 五 第二十五號式 知事官房、內務部、各課
警察部及各隊長提出
- 五 支出決算調査 第二十六號式 全

第四十九條 內務部第五課ニ於テ歲入歲出決算書ヲ調製シタルトキハ內務部第一課ニ移牒スヘシ
內務部第一課ニ於テハ之ヲ縣參事會及縣會ヘ提出ノ手續ヲナシ主務省ヘ報告并ニ告示ノ手續ハ內務部第
五課ニ於テ取扱フヘシ

第六章 簿表

- 第五十條 縣廳及各屬ニハ左ノ簿表ヲ作り整理スヘシ
- 一 原簿 第二十七號式
 - 二 歲入簿(縣稅、中學資金、
奈良公園費)
 - 三 歲出簿(全) 第二十八號式
 - 四 概算渡現金前渡繰替拂整理簿 第二十九號式
 - 五 納入告知書臺帳 第三十號式
 - 六 送金命令及支出通知交付簿 第三十一號式
 - 七 歲入歲出日計表 第三十二號式
 - 八 支出豫算月額整理簿 第三十三號式
- 第五十一條 縣廳ニハ前條ノ外尙ホ左ノ帳簿ヲ作り整理スヘシ
- 一 各縣金庫現金仕譯簿 第三十四號式
 - 二 公債証書出納簿 第三十五號式
 - 三 縣金庫擔保品出納簿 第三十六號式
 - 三 縣金庫擔保品出納簿 第三十七號式

- 四 歲出豫算差引簿 第三十八號式
- 五 歲出伺濟額支出差引簿 第三十九號式
- 六 吉野公園費收支簿
- 七 罹災救助基金收支簿
- 八 慈惠救濟資金收支簿 第四十號式
- 九 小學校教員年功加俸收支簿
- 十 教育資金收支簿

第五十二條 知事官房各部課ニハ第三十八號式ノ歲出豫算差引簿ヲ作り各主管ニ屬スル豫算差引ヲ登記整
理スヘシ

- 第五十三條 常時縣出納吏ハ左ノ帳簿ヲ作り整理スヘシ
- 一 歲入歲出外現金出納簿 第四十一號式
 - 二 歲入現金出納簿

臨時縣出納吏ハ左ノ帳簿ヲ作り整理スヘシ

- 一 前渡現金出納簿 第四十一號式

第五十四條 前四條ノ外整理上必要アルトキハ補助簿ヲ設クル事ヲ得
但之レカ爲メ規定ノ簿表ヲ省略スルヲ得ス

第五十五條 帳簿ハ總テ各經濟毎ニ調製スヘシ

但第五十條第四號第六號及第五十三條ノ場合ハ此限ニアラス

第五十六條 帳簿ハ收支ヲ爲シタル當日必ス其登記ヲ了スヘシ
但不得止下キハ原簿及出納簿ヲ除クノ外ハ翌日限り之ヲ整理スルヲ得

- 五 郡役所ニ在テハ第三科長會計事務主管ノ科長(全上)
- 六 縣立學校ニ在テハ上席書記
- 七 農事試驗場ニ在テハ其場長
- 八 測候所ニ在テハ其所長
- 九 驅煤院ニ在テハ其院長

十 物産陳列所ニ在テハ其所長(全上)

第九條 共用物品ヲ保管シ之カ取扱ヲ爲スモノヲ物品取扱主任トシ其所屬長ニ於テ選定スヘシ
但便宜ニヨリ物品取扱主任ヲ置カス物品出納吏ヲシテ直接取扱ヲ爲サシムルコトヲ得

第二章 物品出納

第十條 所屬長ハ該廳必要ノ物品中備品ハ品目數量價格ヲ消耗品ハ品目ヲ規定シ置キ之カ購入ヲ爲スヘシ
但購入法ノ設ケアルモノハ其規定ニ依ルヘシ

第十一條 物品出納吏ハ所屬長ノ命令アルニアラサレハ物品ヲ出納スル事ヲ得ス

第十二條 物品ノ出納ハ消耗賣却亡失毀損生産ノ爲メノ消費及其他物品出納吏ノ保管ヲ離ル、チ出トシ買入生産及其他物品出納吏ノ保管ニ屬スルヲ納トス

第十三條 物品出納吏ニ於テ購入其他ノ事由ニヨリ物品ヲ接受シタルトキハ之ヲ證憑書類ニ照シ調査納入スヘシ

第十四條 物品ノ請求ハ其専用ニ係ルモノハ各自共用ニ係ルモノハ物品取扱主任ニ於テ物品出納吏ニ備ヘアル請求簿ニ式ノ如ク記入捺印シ其交付ヲ受ケタルトキハ受領證印ヲ爲スヘシ
但遠隔ノ地ニアルモノ若クハ洋式帳簿ヲ用フル官衙ニシテ本條ニ依リ難キトキハ請求書ヲ差出シ其交付ヲ受ケタルトキハ受領證書ヲ差出スヘシ

第十五條 物品出納吏間相互物品ヲ交付スル必要アルトキハ總テ保管轉換トシテ出納スヘシ此ノ場合ニ於テ甲ノ物品出納吏ハ品名數量價格ヲ通知シ乙ノ物品出納吏ハ其物品ヲ受入レタルトキ受領證書ヲ差出スヘシ
但費途ノ異ナルモノハ保管轉換ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 消耗品ノ内共用ニ屬スル薪炭油ノ如キ日々費消スル物品ハ一周乃至二週間ノ需用概算高ヲ以テ前渡スルコトヲ得

第十七條 使用ノ物品不用ニ屬スルカ又ハ毀損等ニシテ修繕ヲ要スルモノハ物品出納吏ニ備ヘアル返納簿ニ式ノ如ク記入捺印シ之ヲ返納スヘシ
但各自専用ノ物品ニシテ死亡其他ノ事故ニ依リ自ラ返納スルコト能ハサルモノハ物品取扱主任之ニ代リ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 不用ニ屬スル物品及毀損シテ修補ヲ加ヘ難キ物品ハ所屬長ノ指揮ヲ得テ處分スヘシ

第三章 保管責任

第十九條 物品出納吏ハ其故意怠慢ニ依リ保管ノ物品ヲ亡失毀損シタルトキハ其責ニ任スヘシ

第二十條 専用ノ物品ハ各専用者共用ノ物品ハ物品取扱主任保管ノ責ニ任ス

第二十一條 物品出納吏ハ専用ト共用トチ問ハス物品取扱主任ニ關シテハ監督ノ權アルモノトス

第二十二條 第十九條第二十條ノ保管ノ責アルモノ又ハ保管ノ責ナキモノト雖モ故意若クハ怠慢ニ依リ亡失毀損シタルトキハ之ニ對スル物品又ハ相當代價ヲ辨償セシムヘシ

第二十三條 水火盜難又ハ其他ノ事故ニヨリ其保管スル所ノ物品ヲ亡失毀損シタル場合ニ在テハ其保管上避ケ得ヘカヲサリシ事實ヲ證明シ所屬長ノ處分ヲ受クヘシ

第二十四條 物品出納吏ハ特ニ命セラレタル代理者ノ所爲ニ付テハ其責任ヲ免ル、コトヲ得

物品出納吏ノ代理者ハ其代理シタル所爲ニ付物品出納吏タルノ責任ヲ免ル、コトヲ得ス

第二十五條 凡ソ貯藏ノ物品ハ品種數量ヲ明瞭ニシ倉庫又ハ締アル場所ニ設置スヘシ

第二十六條 使用中ノ物品ハ毎年一回物品出納吏ニ於テ其現品ヲ點檢スヘシ
但必要アルトキハ其時々本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四章 帳簿報告

第二十七條 物品出納吏ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ其出納ヲ登記スヘシ
但帳簿ハ第二號乃至第五號様式ニ依ル

備品出納簿

消耗品出納簿

保管物出納簿(全上追加)

請求簿

返納簿

物品受拂簿

郵便切手受拂簿

第二十八條 物品取扱主任ハ左ノ帳簿ヲ設ケ其受拂ヲ登記スヘシ
但帳簿ハ第六號及第七號様式ニ依ル

第二十九條 前條ノ外補助簿ヲ設クルノ必要アルトキハ便宜之ヲ設クルコトヲ得

第三十條 凡ソ物品ノ出納ハ其時々帳簿ニ登記シ現品ヲ明晰ナラシムヘシ

第三十一條 郵便切手ノ受拂ハ物品取扱主任ニ於テ每一ヶ月分ヲ翌月五日迄ニ所屬長及物品出納吏ノ査閱ヲ受クヘシ

但遠隔ノ地ニ在ルモノニシテ本條ニ依リ難キモノハ報告書(第八號)ヲ調製シ差出スヘシ

第三十二條 物品出納吏ハ第二十七條帳簿ノ結果ニ依リ毎年物品出納報告表(第九號)ヲ調製シ年度經過后二ヶ月以内ニ出納命令者ノ檢閲ヲ經テ知事ニ差出スヘシ

第五章 雜則

第三十三條 物品出納吏交替ヲ爲シタルトキハ前任者ハ現在品及帳簿ヲ後任者ヘ引繼キ前任者後任者連署ノ上引繼完了ノ旨ヲ知事ニ報告スヘシ

但死亡其他ノ事故ニヨリ自身引繼ヲ爲ス能ハサルハ後任者ニ於テ所屬長ノ命シタル吏員ノ立會ヲ得テ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十四條 用品ノ賣却代金ハ現ニ之ヲ執行シタル年度ノ雜收入ニ納入スヘシ

第三十五條 備品消耗品ノ證據ハ各品ニ區分編綴シ帳簿ト照合ニ便ナラシムヘシ

第三十六條 本則施行ノ際在來ノ物品ハ物品出納吏ニ於テ現在數ヲ取調所屬長ノ認定ヲ經テ元受トナスヘシ

(第一號)

備品種類別表

(本表ハ其一斑ヲ示シタルモノトス)

備品ノ部

品目	品名	單位	細	別
椅子類	椅子	脚	革張椅子、藤張椅子	
腰掛	腰掛	全		
卓子類	卓子	脚	長方形大卓子、同並卓子、楕圓形大卓子、腰掛付卓子	
簿記臺	簿記臺	全		
机	机	全		
箱類	用箱	個	書箱、本箱、器具入箱、器械入箱、卓上用箱	
	戸棚	全	書箱戸棚、物品戸棚、藥品戸棚	
	置棚	全	書棚、膳棚	
	箆	全		
品目	品名	單位	細	別
金庫	金庫	全		
鍵箱	鍵箱	全		
印箱	印箱	全		
狀箱	狀箱	全		
葛籠	葛籠	個		
長持棹	長持棹	個		
手桶	手桶	個		
風呂桶	風呂桶	全		
手水盥	手水盥	全		
足盥	足盥	全		
金盥	金盥	全		

類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類	類
暖爐火鉢類	釣瓶	全																	
暖爐	暖爐	個																	
火鉢	火鉢	全																	
石炭入	石炭入	全																	
煙草盆	煙草盆	全																	
火入	火入	全																	
灰吹	灰吹	全																	
印章版木類	職印	個																	
烙印	烙印	全																	
活字	活字	全																	
活字挾	活字挾	全																	
版面	版面	全																	
点燈器	点燈器	全																	
文	文	具																	
提燈	提燈	張																	
角燈	角燈	個																	
燭臺	燭臺	全																	
行燈	行燈	全																	
油入	油入	全																	
油皿	油皿	全																	
燈心押	燈心押	全																	
硯	硯	面																	
イソキ壺	イソキ壺	個																	
錐	錐	全																	
小刀	小刀	全																	
硯箱	硯箱	全																	
水入	水入	全																	
高張提燈	高張提燈	張																	
釣ランプ	釣ランプ	個																	
置ランプ	置ランプ	個																	

類書籍帳簿	砥石全	傘立全	洋刀掛個	額面	衝立個	屏風枚	燒鑊個	裁物板枚	裁物庖丁挺	刷毛全	靴土搔個	靴拭枚	帽子掛個	掛札枚
具測候用器	測旗旒	平面器全	卷尺全	双眼鏡全	直角器全	高低器個	帳簿全	郡報全	警察公報全	奈良縣報全	官報全	規則書冊	書籍部	書籍部
具測量用器														ハルツ氏内科書、ヒューテ ル氏外科書、何々書 類聚法規、何々書

炭取全	灰篩全	五德全	椀個	庖丁挺	火箸揃	盆枚	茶碗全	水瓶全	鐵瓶全	土瓶全	釜全	鍋全	竈個	厨具
札掛全	榭全	權衡個	卓子掛枚	呼鈴全	時計個	蒲團上敷枚	枕個	寐臺個	蚊帳張	毛布全	蒲團枚			臥具
	壹升榭、壹合榭				大形掛時計、並形掛時計、置時計		草枕、木枕		七八蚊帳、五六蚊帳					箆全

農業用器		體操用器		音樂用器		工業用器		刑具及戒		品巡查貸與		品巡查給與		刑具及戒								
脱秤器	人工孵卵器	鍬	鎌	ト ラ ッ ヘ	球 竿 本	ピアノ 臺	テ ー ル カ	風 琴 個	紙 漉 簀 枚	藁 打 槌 挺	絞罪綱筋	帽 章 個	帶 劔 本	呼子笛 個	捕 繩 筋	角 燈 個	手 帖 冊	帽 個	夏服上衣 枚	冬服上衣 全	冬服袴 全	帽日覆 全

治療用器		調劑及分 拆用器具		化學用器		理學用器		理學用器		理學用器		理學用器		理學用器										
晴雨計	寒暖計	驗温器	雨量計	風針器	信號器	望遠鏡	注射器	聽診器	驗温器	灌腸器	截丸器	丁幾推	乳鉢	乳俵	白金皿	安全漏斗	試驗管	彈力驗器	排氣器	氣壓計	硫化水素 發生器	水分拆器	キシ スト レ キ	削切器
個	全	全	全	全	全	全	個	全	全	全	個	全	全	全	全	全	全	個	全	全	個	全	全	全

(第五號様式)

明治何年度何々費所屬

返納簿

何廳處名

備考

一本簿ハ一ヶ年度限リ調製スルモ數年度繼續使用スルモ適宜タルヘシ
一本簿ヨリ出納簿ニ轉記シ記帳簿ノ印ヲ捺スヘシ

備品ノ部

出納吏 認印	主査 認印	返納月日	品名	番號員數	返納事由	返納者氏名印
○	○	四月一日	布張椅子	三號 一脚	不 用	某○
○	○	四月三日	テーブル	五號 一脚	毀 損	某○

(第六號様式)

物品受拂簿

何課名「又ハ何署」

備考

一本簿ハ毎年度限リ調製スルモ數年度繼續スルモ適宜タルヘシ

備品ノ部

月日	摘要	番號	受高	返納高	現在高
四月一日	何々用トシテ受取	一	一		
	全	二	一		
	全	三	一		
全五日	不用ニ付返納	三		一	

部			拂 之						
計 格			消 耗 量	賣 却 量	亡 失 毀 損 量	生 產 量	保 管 轉 換 量	交 付 量	
價	格	部							
円	銭	厘							

部			現 在 之 部			備 考
價 格			數 量	價 格		
円	銭	厘			円	銭

右報告候也
 但何錢切手 何枚
 何錢切手 何枚

年 月 日
 物品出納更死

主任
 官 任
 氏 名 印

(第九號書式)

明治何年度

物品出納報告表

何廳廨名

○物件賣買規則
縣經濟ニ屬スル物件賣買規則左ノ通相定ム
明治三十五年三月卅一日
奈良縣令第十七號

物件賣買規則
第一章 總則

品目	越	
	數量	價
單位稱ノ		

受之										
高			本				受		入	小
格		購入數量	生産數量	戻入數量	保管數量	轉換數量	價		格	數量
円	銭						円	銭	円	

第一條 縣經濟ニ屬スル物件ノ賣買ハ特ニ規定シタルモノ、外本則ニ依リ競争入札ニ付スヘシ但左ノ各號

ノ一ニ該當スル物件ノ賣買ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一 競争入札ニ應スル者ナキハ又ハ再度ノ入札ニ付スルモ望ナシト認メタルハ

二 急施ヲ要シ競争入札ニ付スル暇ナキハ

三 一人又ハ一會社ノ專有スル物件ノ購入ヲ要スルハ

四 特別ノ技術家ニ非サレハ製造ヲ得ヘカラサル製造品及器械ヲ買入ル、ハ

五 特種ノ物品ヲ生産者又ハ製造者ヲシテ直接ニ供給セシムル必要アルハ

六 一廉金五拾圓ヲ超ヘサルハ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ物件賣買ノ競争ニ加入シ若クハ其契約ヲ結フヲ得ス但指名入札及隨

意契約ニ依ル場合ハ第一號第二號ニ該當スルモ妨ナシ

一 買入物件ニ付テハ其物件ノ賣買ニ關シ二年以上營業ニ従事セサル者

二 一廉ノ金額一萬圓以上ハ直接國稅十圓以上五百圓以上ハ五圓以上五百圓未滿百圓以上ハ三圓以上ヲ

納メサル者

三 未成年者、禁治產者又ハ準禁治產者

四 破產者クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨濟ヲ終ヘサル者

五 剝奪公權者又ハ停止公權者

六 現ニ公ノ救助ヲ受クル者

七 本縣ニ於テ物件賣買ニ關シ違約處分ヲ受ケ其契約ヲ解除セラレ若クハ落札後其契約ヲ結ハサリシ者

ニシテ滿二ヶ年ヲ經過セサル者

第三條 物件賣買ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者ハ第一號書式ニ依リ本人住所市町

村長(京都市大阪府)ノ證明ヲ受ケタル者ニ限ル但會社組合又ハ四年以上其營業ニ従事スル一個人ニシテ相
當資産アリト認ムル者ハ本條ノ證明ニ代ヘ履歷書ヲ徵スルコトアルヘシ

第四條 物件賣買ノ競争ニ加ハラントスル者ハ入札金高百分ノ五以上其契約ヲ結ハントスル者ハ契約金高
百分ノ十以上ノ現金又ハ國債証書又ハ奈良縣農工債券ヲ以テ保証金ヲ納ムヘシ

原料ヲ交付シテ物品ノ製造及修繕ヲ爲サシムルトキハ契約保証金ノ外其原料代價ニ相當スル金額ヲ身元
保証金トシテ納付スヘシ

第五條 前條ノ保証金ハ左ノ方法ニ依リ納付スヘシ

一 現金ハ縣金庫ニ預ケ入レ其預リ証書ニ國債証書又ハ奈良縣農工債券ハ其証書ニ第二號書式ニ依リ納
付書ヲ添付スヘシ

二 國債証書及奈良縣農工債券記名ナルトキハ賣却ノ權限ヲ與ヘタル委任狀ヲ添付シ且ツ當該廳屬ヲ經
由シテ確定日附アル証書ヲ以テ第三債務者ニ質權ノ設定ヲ通知スヘシ

三 錢位未滿ノ端數ハ錢位ニ切上クルモノトス

第六條 第四條第一項ノ歩合及保証金ニ充ツヘキ國債証書、奈良縣農工債券及原料ノ價格ハ縣ノ定ムル
ニ依ルヘシ

第二章 競争入札

第七條 物件ノ賣買ヲ入札ニ付スル時ハ急施ヲ要スル場合ノ外少クトモ七日以前ニ左ノ事項ヲ縣報、新聞
紙其他公示ノ方法ヲ以テ廣告ス

一 物件ノ種類、名稱及數量等

二 見本又ハ圖面標本等ヲ示スヘキ場所

三 入札執行ノ場所及日時

- 四 物件ノ納付又ハ引渡ノ期日及場所
- 五 入札保証金若クハ其歩合
- 六 前各號ノ外必要ト認ムル事項
- 第八條 入札ヲ爲サントスル者ハ第三號書式ニ依リ入札書ニ本人若クハ其代理人署名捺印ノ上封緘シテ指定ノ日時ニ差出スヘシ但封筒表面ニハ契約締結者氏名及何々入札書裏面ニハ住所氏名ヲ記載スヘシ會社名ヲ以テスル入札書ニハ社印ヲ捺捺スル外仍ホ其代表者ノ署名捺印ヲ要ス
- 前二項ノ入札書ニハ資格證明書及入札保証金ヲ添付スヘシ
- 第九條 入札保証金ヲ納付シタルトキハ第四號書式ニ依リ領收証ヲ交付ス
- 第十條 代理人ヲ以テ入札ヲ爲サントスルハ委任狀ヲ差出スヘシ入札人ハ他ノ入札人ヲ代理スルコトヲ得ス
- 代理人ハ二人以上ノ入札人ヲ代理スルコトヲ得ス
- 第十一條 開札ハ公告ニ示シタル場所日時ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フ
- 第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル入札ハ無効トス
 - 一 入札書ノ要項ニ違フモノ
 - 二 一人ニシテ全一事項ニ二通以上ノ入札ヲ爲シタルモノ
 - 三 誤字脱字若クハ汚染塗抹毀損等ニヨリ金額數量住所氏名其他入札ノ要件ヲ認識シ難キモノ
 - 四 入札保証金ヲ納付セサルモノ及其保証金不足ノモノ又ハ資格證明書ヲ添付セサルモノ
 - 五 開札ノ際現場ニ參會セサルモノ
 - 六 第十條ノ各項ニ違背シタルモノ
 - 七 二人以上連帶ノ入札

- 八 入札金額ニ付互ニ談合ノ上入札シタルト認メタルトキ
- 九 一廉ノ入札數三票ニ滿タサルトキ
- 第十三條 入札ノ効力ニ關シ疑義アルトキハ係員ニ於テ之ヲ決定ス入札人ハ此決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス
- 第十四條 入札ハ買入物件ハ豫定價格以內ノ最低額賣却物件ハ豫定價格以上ノ最高額ヲ以テ落札トス
- 第十五條 落札ト爲ルヘキ全價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ全價ノ入札者ヲシテ直チニ再度ノ入札ヲ爲サシム
- 再度ノ入札ヲ爲スモ尙ホ全價ノ入札アルトキハ直チニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ム但買入物件ニ付テハ見本ノ善良ナルモノヲ以テ落札人ヲ定ムルコトアルヘシ
- 第十六條 落札決定シタルトキハ落札人ニ對シ直チニ其旨ヲ告知ス落札人ハ落札ノ告知ヲ受ケタルトキハ第五號書式ニ依リ即日受書ヲ差出スヘシ
- 第十七條 落札人ハ前條受書ヲ差出シタル日ヨリ三日以內ニ第六號書式ニ依リ契約書ヲ差出スヘシ
- 第十八條 落札人決定シタルトキ又ハ競争入札成立セサルトキ若クハ第二十一條ニ依リ入札ヲ取消シタルトキハ入札保証金ハ之ヲ還付ス但落札人ノ入札保証金ハ契約保証金ヲ納付シタルトキ之ヲ還付ス
- 落札人ノ入札保証金ハ契約保証金ニ轉納スルコトヲ得
- 第十九條 入札ノ後入札人ニ於テ其入札ノ取消ヲ申出ルトキ又ハ落札人ニ於テ契約ヲ締結セサルトキハ其入札保証金ハ縣ノ所得トス
- 第二十條 入札人不正ノ行爲ニ依リ落札者ト爲リタルトキハ其落札ヲ取消シ入札保証金ハ縣ノ所得トス
- 第二十一條 第十四條ニ該當セル入札ト雖モ豫定價格ニ對シ著シキ相違アリテ不相當ト認ムルトキ若クハ縣ノ都合ニ依リ入札ヲ取消スコトアルヘシ但之レカ爲メ生シタル損害ハ縣ニ於テ賠償ノ責ニ任セス

第二十二條 落札人第十六條第二項及第十七條ニ違背シタルトキハ契約ヲ結ハサルモノト見做シ之ヲ處分ス

第二十三條 物件ノ種類又ハ狀況ニ依リ知事ニ於テ必要ト認メタルトキハ當業者三名以上ヲ指名シテ入札セシム此場合ニ於テ第七條公告ノ事項ハ之ヲ入札人ニ通知スヘシ

第三章 賣 買

第二十四條 買入物品ヲ納付シタルトキハ之ヲ検査シ不合格ト認ムルトキハ更ニ調達セシムヘシ前項ノ場合ニ於テ更ニ調達ノ見込ナシト認ムルトキハ契約期限内ト雖モ其契約ヲ解除スルコトアルヘシ
拂受代金ヲ納付セスト認メタルトキ亦全シ
契約期限内ニ買入物品ヲ完納セサルトキハ其期限ノ翌日ヨリ起算シ經過ノ日數ニ應シ一日ニ付契約代價ノ二百分ノ一ニ相當スル金額ヲ徴收シテ延期スルコトアルヘシ

第二十五條 契約ヲ解除シタル場合ニ於テ既納ノ物品アルトキハ之ヲ返付シ又ハ契約代價ノ割合ニ依リ算出シタル金額ヲ交付ス

物品製造又ハ修繕ノ爲メ原料ヲ交付シタル場合ニ於テ契約ヲ解除シタルトキハ其原料ハ之ヲ返納セシム其已ニ全部若クハ一部ヲ消費シタルトキハ代品ヲ以テ之ヲ納付セシメ又ハ之レニ相當スル金額ヲ身元保証金ヨリ引去ルヘシ

第二十六條 前二條ノ場合及其他本章ノ規定ニ違背シタル爲メ契約ヲ解除シタルトキハ其保証金ハ縣ノ所得トス但天災其他避クヘカヲサル事故ノ爲メ契約ヲ履行シ能ハサル場合ハ此限ニアラス

第二十七條 買入物件ノ納付以前ニ於テ天災其他ノ事故ニ依リ其物件ニ生シタル損害ハ納付者ノ負擔トス
第二十八條 原料ヲ交付シテ物品ノ製造又ハ修繕ヲ爲サシムル場合ニ於テ天災其他避クヘカヲサル事故ニ依リ其原料ニ損害ヲ生シタルトキハ落札人ノ負擔トス

第二十九條 賣却物件ノ代價ハ其物件ノ引渡期日前ニ之ヲ完納スヘシ但不動産及立木ノ賣却代價ハ契約同時ニ之ヲ完納スヘシ

買入又ハ調製ヲ命シタル物件ノ代價ハ其物件完納ノ上之ヲ下付ス

賣却物件ノ性質ニ依リ引渡以前ニ於テ其數量ヲ確認スルコト能ハサルモノハ引渡前契約代價ノ十分ノ五ヲ納付セシメ引渡後指定ノ期限内ニ其殘額ヲ納付セシムヘシ

第三十條 契約保証金身元保証金ハ物件納付若クハ引渡了リタル後一ヶ月以内ニ之ヲ還付ス

第一號書式

入札資格證明書

住 所

氏 名

- 一 二年以上何々營業ニ從事ス
- 一 直接國稅何圓ヲ納ム
- 一 未成年者、禁治産者又ハ準禁治産者ニアラサルコト
- 一 破産若クハ家資分散ノ宣告又ハ身代限りノ處分ヲ受ケタルコトナシ
- 一 明治何年何月何日破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ何年何月何日復權ヲ得明治何年何月何日身代限りノ處分ヲ受ケ何年何月何日辨濟ヲ終ヘタリ
- 一 剝奪公權者又ハ停止公權者ニアラス
- 一 現ニ公ノ救助ヲ受クル者ニアラス

右之通相違無之候也

右

年 月 日

何某(契約締結者)殿

前書之通相違ナキヲ証明ス

年 月 日

第二號書式

(入札、契約身元)保証金納付書

一 現金何程

一 公債証書(奈良縣農工債券)價格金何程但額面百圓ニ付金何程

此額面 何程

内

(記名)何々公債証書(奈良縣農工債券)額面何程記番號何枚

但(何々入札保証金)(何々落札金高何程ニ對スル契約保証金)

(何々製造、修繕ニ付何々何程御交付ニ對スル身元保証金)

右納付候也

年 月 日

何某(契約締結者)殿

第三號書式

入札書

一何々

何 個

住 所

氏

名 印

氏

名 印

市區町村長 氏

名 印

但(圖面)(見本)ノ通

此代金何程但壹個ニ付金何程

右金額ヲ以テ(納付、拂受)可仕且物件賣買規則承知ノ上入札候也

年 月 日

何某(契約締結者)殿

第四號書式

領收証

一金何

但何々入札保証金

右領收候也

年 月 日

何 某 殿

備考 契約保証金身元保証金領收証モ本式ニヨル

第五號書式

御 請 書

一何々

何 個

此代金何程但一個ニ付金何程

右入札ノ處前書ノ金額ニテ私ハ落札ノ旨御通知ニ依リ承知仕候ニ付テハ明治三十五年三月奈良縣令第十七號物件賣買規則第十六條ノ期限内ニ契約書提出可仕此段御請仕候也

住 所

氏

名 印

縣 出 納 吏 印

年 月 日

何某(契約締結者)殿

第六號書式

印紙 契約書

一何々 何個

此代金何程 但一個ニ付何程

但別紙明細書(圖面、見本)ノ通

右今般(御買上、御拂下)相成候ニ付契約保証金何圓相納ノ候ニ就テハ(何月何日迄ニ無相違上納可任、何月何日迄ニ代金上納ノ上何月何日迄ニ無相違該品引取可申)且明治三十五年三月奈良縣令第十七號物件賣買規則堅ク相守一切違背仕間敷候依テ契約書如件

年 月 日

住 所

氏

名 印

住 所

落札人

氏

名 印

全

保証人

氏

名 印

何某(契約締結者)殿

備考 契約ニ付特ニ必要ナル事故アル片ハ之ヲ記入スルモノトス

○縣金庫ニ關スル事務規程

明治三十四年三月十九日 奈良縣訓令甲第十七號

奈良縣金庫ニ關スル事務規程左ノ通改正シ明治三十四年度ヨリ施行ス

縣金庫ニ關スル規程

第一章 總 則

第一條 縣金庫ニ關スル事務ハ別ニ規定シタルモノ、外總テ本則ニ依ル

第二條 廳廡ハ出納ニ關係アル官吏々員ノ官氏名印鑑ヲ所屬縣金庫ニ縣金庫ハ金庫印及其出納ニ關係アル事務員ノ職氏名印鑑ヲ所管廳廡ニ通知スヘシ

前項ノ官吏々員及事務員ノ交替アリタルトキ亦全シ

第三條 縣金庫保管金ノ出納ハ左ノ區分ニ依リ整理スヘシ

- 一 縣稅
- 二 罹災救助基金
- 三 慈惠救濟資金
- 四 中學資金
- 五 小學校教員恩給基金

知事官房
 內務部
 警務所
 郡役所
 市役所
 警察署
 立學校
 農事試驗場
 縣金庫

- 六 小學校教員恩給金
 - 七 小學校教員加俸資金
 - 八 教育資金
 - 九 奈良公園費
 - 十 吉野公園費
 - 十一 歳入歳出外ノ現金收入
- 前項第一號乃至第十號ノ各庫ニ關スルモノハ歳入歳出ニ區分スヘシ
- 第四條 廳庫ニ納付ノ爲メ一時預入金ヲ爲スル縣金庫ニ於テハ左ノ區分ニ依リ整理スヘシ
- 一 假預リ金

收入金 (歳入ノ現金收入)

保管金 (歳入歳出外ノ現金收入)

現金前渡金

- 第五條 縣金庫保管金及帳簿ハ會社ノ私金又ハ帳簿ト混同セサル爲メ常ニ之ヲ區分スヘシ
 - 第六條 縣金庫ニ於テ領收スル現金ハ其持參人ノ面前ニ於テ貨幣ヲ鑑定シ若シ贋造描改ノ通貨ヲ發見シタルトキハ明治九年第五十七號布告ニ依ルヘシ
 - 第七條 縣金庫ニ於テ仕拂フヘキ現金ハ特ニ指定スルモノ、外其金庫現在ノ通貨ヲ以テスヘシ
 - 第八條 縣金庫ハ出納事務ヲ取扱ハシムル爲各廳庫ニ其執務時間中事務員ヲ派出スヘシ
- 但臨時至急ヲ要スルトキ又ハ事務ノ輻輳スルトキハ前項ノ時間外ト雖知事又ハ各廳長ニ於テ特ニ取扱ヲ命スルコトアルヘシ
- 第九條 縣金庫ノ印章ハ方五分トシ各其縣金庫名ヲ刻スヘシ

第二章 收入支出

- 第十條 縣廳所屬奈良縣金庫ニ於テ領收シタル各經濟ノ保管金ハ其ノ經濟ノ支出資金ニ充ツヘシ
- 各廳所屬縣金庫ニ於テ支出資金トシテ回送ヲ受ケタル保管金ハ其經濟ノ支出資金ニ充ツヘシ
- 假リ預リ金ハ各其現金ヲ以テ支出資金ニ充ツヘシ
- 第十一條 誤過納還付ヲ要スルモノアルトキハ收入シタル歳入ヨリ支出スヘシ
- 第十二條 誤過拂繰替拂概算渡及現金前渡ノ戻入ヲ要スルモノアルトキハ仕拂タル經費ノ定額ニ戻入スヘシ
- 第十三條 縣出納吏ヨリ假リ預リ證其他ノ金券ヲ以テ拂込ミ又ハ現金引換ノ要求アルトキハ會計細則第十六條ノ認印ヲ確認スルニ非ラサレハ其執行ヲ爲スコトヲ得ス
- 第十四條 縣金庫ニ於テ支出命令ヲ受ケタルトキハ様式及印鑑等ヲ調査シ案内支出命令ト對查シタル上相違ナキトキハ左ノ如ク取扱フヘシ
 - 一 縣金庫所在地ニ於テ仕拂ヲ要スル支出命令ナルトキハ之レト引換ニ現金ヲ受取人ニ交付スヘシ
 - 二 支出命令ヲ當テタル縣金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル支出命令ナルトキハ即日其金額ヲ受取人ニ送付シ之カ領收證書ヲ徴スヘシ
 - 三 現金仕拂濟ノ后ハ支出命令ニ現金交付濟ノ年月日ヲ記入シ之ヲ保存スヘシ
- 第十五條 支出命令持參人ニ疑ヲ措キタルトキハ交換ヲ猶豫シ置キ直チニ其事由ヲ報告シテ知事又ハ各廳長ノ指揮ヲ請フヘシ
- 第十六條 縣金庫カ歳入歳出外保管金ノ引出切符ヲ受ケタルトキハ總テ支出命令ノ例ニ依リ取扱フヘシ
- 第十七條 縣金庫保管金ヲ送付セシメントスルトキハ知事又ハ各廳長ハ縣金庫ニ對シ第一號式ニ依リ回送命令ヲ發スヘシ
- 第十八條 回送又ハ振替命令ハ送金若シクハ振替ヲ執行スル縣金庫ニ送付シ案内回送命令ハ回送ヲ受クル

縣金庫ニ送付スヘシ

第十九條 縣金庫ハ保管金ノ回送又ハ振替命令ヲ受ケタルトキハ即日之ヲ執行スヘシ

保管金ノ回送ヲ受ケタル縣金庫ハ回送金ハ回送案内ト對查ノ上即日第二號式ノ回送金領收濟通知ヲ回送命令發受双方ノ廳廨ニ發送スヘシ

振替命令ヲ受ケタル縣金庫ハ振替濟ノ當日第三號式ノ振替濟通知ヲ發行ノ廳廨ニ發送スヘシ

第二十條 各縣金庫間ノ回送命令ニ對シテハ其受領證書ヲ作り即日發送ノ縣金庫ニ送付スヘシ

第三章 簿 書

第二十一條 縣金庫ハ左ノ帳簿ヲ設ケ整理スヘシ

- 一 現金出納簿 第四號式
- 二 現金出納内詳簿 第五號式
- 三 縣廳歲入歲出整理簿 第六號式
- 四 各廳歲入整理簿 第七號式
- 五 各廳歲出整理簿 第八號式
- 六 縣出納吏保管金出納簿 第九號式
- 七 未拂金整理簿 第十號式
- 八 各支金庫現金出納整理簿 第十一號式

前項第三號及第八號ハ支金庫ニハ之ヲ設備スルヲ要セス

帳簿ハ總テ毎年度別冊ニ之ヲ調製スヘシ

第二十二條 縣金庫ニ於テ出納ニ關スル諸帳簿及證書類ハ使用后滿十ヶ年間之ヲ保存スヘシ

證書書類ハ毎年度各廳廨經濟別ニ編纂シ表紙ヲ附シ帳簿ノ締高ト對照ノ上合計及科目ヲ記載スヘシ

第二十三條 縣金庫ハ第十二號式ノ現金出納日計表ヲ作り即日退廳時間迄ニ所管ノ廳廨及縣出納吏ニ差出スヘシ

縣支金庫ハ前項ノ現金出納日計表ヲ即日縣本金庫ニ送付スヘシ

第二十四條 縣金庫ハ第十三號式ノ毎月收入金突合表ヲ作り翌日限り所管ノ各廳ニ差出スヘシ其一ヶ月ヲ

經過セサルモ全經濟ノ領收金額參千圓ニ滿チタルトキ亦全シ

第二十五條 縣金庫事務取扱上擔保トシテ提供スル証券ノ出入ニハ第十四號式ノ証券ヲ用ウヘシ

(様式省略)

○豫定經費要求書及收入豫算調書

明治三十四年六月八日
奈良縣訓令甲第三十六號

知事官房
 內務部
 警務部
 郡役所
 警察署
 立學校
 農事試驗場

奈良縣會計規則第十一條及奈良縣會計細則第一條ニ依リ提出スヘキ毎年度豫定經費要求書及收入豫算調書調製ニ關スル規定左ノ通相定ム

第一條 經費ヲ算出スルニハ其必要ヲ生スル法律命令契約其他經費ヲ請求スル確實ノ理由ヲ示スヘシ

第二條 經費中其給與ニ屬スルモノハ一人當リノ給額ヨリ積算シ又其物件ニ屬スルモノハ一個當リノ費用ヨリ積算スヘシ

第三條 一人當リノ給額ヲ算出スルニハ規定ノ給額アルモノハ其規定ノ額ヲ基トシ又規定ノ給額ナキモノハ各其據ル所ヲ示スヘシ

通信及運搬費		何程前々年度以前三ヶ年度平均一ヶ年度ニ付何回壹回平均何錢 第二節 運搬費金何圓前々年度以前三ヶ年度平均一ヶ年度ニ付何度一度ニ付平均金何錢
(項)		
校費		第一節 備品費金何圓 別紙ノ通 第二節 圖書費金何圓 別紙ノ通 第三節 器械標本費金何圓 別紙ノ通 第四節 消耗品費金何圓 別紙ノ通
修繕費		何々修繕何ヶ所 別紙設計書ノ通

備考

- 一 本表ハ單ニ其ノ一例ヲ示シタルニ止マルヲ以テ其ノ他之ニ準ス
- 二 科目ハ前年度豫算ニ依リ前年度ニ於テ其ノ科目ナキモノハ適宜科目ヲ設置スルモノトス
- 三 備品、器械標本、圖書、消耗品、材料、藥品等ニ要スル費用ニ付テハ其品名、數量、價格、用途並ニ數量ノ基ク所ヲ事由欄又ハ別紙ニ評記スヘシ

○俸給支給規則

明治二十八年三月

地方稅備荒儲蓄金中學資金公園費經濟ニ關スル俸給規則左之通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス
但俸給支給ニ關スル從前ノ規定ハ本則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

第一條 地方稅中學資金公園費經濟ニ屬スル俸給及雜給ハ此規則ニ據リ支給スルモノトス但巡查看守俸給ハ此限ニアラス

第二條 俸給及雜給ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ支給ス

- 一 年俸ハ十二分シ毎月之ヲ支給ス
- 二 年俸及月俸日給ハ毎月二十一日(日給ハ三月分)ヲ以テ支給ノ定日トス但休日ニ當ルトキハ順延トス
- 三 日給ハ毎年四月分ハ其月一日ヨリ二十日迄三月分ハ前月二十一日ヨリ翌月末日迄其他ハ前月二十一日ヨリ翌月二十日迄各計算シテ支給スルモノトス

年俸及月俸

第三條 年俸及月俸ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

第四條 非職休職廢官退官退職及死亡ノ時ハ當月分ノ俸給全額ヲ其際支給スルモノトス

第五條 非職休職廢官退官退職者事務引繼殘務整理ノ爲メ特ニ命ヲ受ケ公務ニ從事スルトキハ其間尙從前ノ俸給ヲ給ス但第四條ニ依リ俸給ヲ受ケタル月ハ之ヲ支給セス殘務調理ヲ命セラレタル者其調理翌月以降ニ涉リ前月分ヲ支給スルモノハ第二條ノ支給定日ニ依ル但最後ノ月ハ日割ヲ以テ調理結了ノ日迄其際支給ス

第六條 他廳(學校モ之ニ準)ヘ轉任シタル者ノ俸給ハ其發令ノ當日迄ヲ甲廳ノ負擔トシ翌日以降ノ分ハ乙廳ニ於テ之ヲ支給スルモノトス

他廳ヘ轉任シタルモノハ第二條ノ支給定日ニ拘ハラズ日割計算ヲ以テ發令ノ當日迄ニ係ル俸給ヲ其際支給ス

第七條 他廳ヘ轉任ノ際俸給過渡アルトキハ前任廳ニ於テ其際之ヲ追徴スヘシ

第八條 俸給支給定日後他廳ヨリ轉任シ來リタルトキハ後任廳ニ於テ其月ノ殘日數ニ對スル俸給ヲ其際支給スルモノトス

第九條 願濟旅行又ハ私事ノ故障ニ由リ執務セサルコト三十日ヲ踰ユル者ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減ス

三	等	參	錢	四	錢	貳	拾	錢	七	拾	錢	參	拾	錢
四	等	貳	錢	參	錢	八	錢	六	拾	錢	貳	拾	錢	錢

第二條 巡查看守其他別ニ旅費支給額ヲ定メタルモノハ各其規定ニ從フ

附 錄

○各省官制通則

明治二十六年十月三十一日
勅令 第百二十二號

朕各省官制通則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

各省官制通則

- 第一條 本則ハ外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信ノ各省ニ適用ス
- 第二條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ責ニ任ス
- 第三條 主任ノ明瞭ナラサル事務ニシテ兩省以上ニ關涉スルモノアルトキハ閣議ニ提出シテ其ノ主任ヲ定ム
- 第三條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制定、廢止及改正ヲ要スルコトアルトキハ案ヲ具ヘ閣議ニ提出スヘシ
- 第四條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ省令ヲ發スルコトヲ得
- 第五條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ニ指令又ハ訓令ヲ下スコトヲ得
- 第六條 各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ヲ監督ス若シ警視總監、北海道廳長官、府縣知事ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得
- 第七條 各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス
- 第八條 地方官廳奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ内務大臣之ヲ上奏ス但シ視學官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ内務大臣及文部大臣之ヲ上奏ス(明治二十九年勅令第三百三十七號ヲ以テ但書削除)
(同三十二年勅令第二百五十四號ヲ以テ但書追加)
- 第八條 各省大臣ハ内閣總理大臣ヲ經テ所部ノ官吏ノ敘位敘勳ヲ上奏ス

地方官廳官吏ノ級位級勳ハ前條第二項ノ例ニ依ル

第九條 各省大臣事故アルトキハ法律勅令ニ副署シ省務ヲ敷奏シ内閣ノ議ニ列シ及省令ヲ發スルコトヲ除クノ外其ノ職務ヲ臨時總務長官ニ代理セシムルコトヲ得

第十條 各省ニ大臣官房ヲ置ク

大臣官房ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 機密ニ屬スル事項

二 官吏ノ進退身分ニ關スル事項

三 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項

陸軍省海軍省ニ於テハ前項第七第八ノ事務ヲ掌ラシムル爲特ニ局ヲ置クコトヲ得

第十一條 各省ニ總務局ヲ置ク總務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項各省ノ便宜ニ從ヒ大臣官房ノ事務ヲ各局ニ於テ處理セシムルコトヲ得

二 統計報告ノ調製ニ關スル事項

三 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項

四 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算、決算並會計ニ關スル事項

五 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項

六 其ノ他各省官制ニ依リ特ニ大臣官房ノ所掌ニ屬セシムル事項

第十二條 各省中省務ヲ分掌スル爲局ヲ置ク其ノ分掌事務ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十三條 大臣官房及各局ノ分課ハ各省大臣ノ定ムル所ニ依ル

陸軍省海軍省中ノ分課ハ各其ノ省官制ニ於テ之ヲ定ム

第十四條 各省ニ左ノ職員ヲ置ク

總務長官

官房長

局長

參事官

秘書官

書記官

屬

第十五條 各省總務長官ハ一人勅任トス

第十六條 總務長官ハ大臣ヲ佐ケ省務ヲ整理シ各局部ノ事務ヲ監督シ及總務局ノ事務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

第十七條 各省官房長ハ一人勅任トス

第十八條 各局局長ハ一人勅任トス大臣ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス

但其ノ中一人ハ勅任ト爲スコトヲ得

第十九條 參事官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌ル(明治三十年勅令第八十四號同三十一)

第二十條 參事官ハ其ノ省ノ便宜ニ從ヒ局課ニ兼勤シ若クハ臨時命ヲ承ケ其ノ事務ヲ助ク(明治三十年勅令第二百五十七號ヲ以テ改正)

第二十一條 秘書官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ機密事務ヲ掌リ又ハ臨時命ヲ承ケ各局課ノ事務ヲ助ク

第二十二條 書記官ハ奏任トス大臣ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ各局ノ事務ヲ助ク(明治三十一年勅令第二百五十七號ヲ以テ改正)

第二十三條 各省專任秘書官ハ一人トス但外務省ニ於テハ專任二人ヲ置クコトヲ得

各省專任參事官專任書記官ハ併セテ九人以下トシ其ノ定員ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム但シ内務省大藏省及逓信省ニ於テハ十四人以下ヲ置クコトヲ得(明治三十年勅令第八十四號及同三十一年勅令第二百五十七號ヲ以テ改正)

第二十四條 大臣官房及局中各課ニ課長一人ヲ置キ委任官又ハ判任官ヲ以テ之ニ充ツ課長ハ命ヲ上官ニ承ケ課務ヲ掌理ス

陸軍省海軍省中ノ課長ハ各其ノ省官制ノ定ムル所ニ依ル

第二十五條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十六條 各省判任官ノ定員ハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

第二十七條 本則ニ掲ケルモノ、外各省特別ノ職員ヲ置クコトヲ要スルモノハ各省官制ニ於テ之ヲ定ム

附 則

第二十八條 本令ハ明治三十三年五月二十日ヨリ施行ス

○文部省官制

明治三十一年十月二十二日勅令第二百七十九號

朕文部省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省官制

第一條 文部大臣ハ教育學藝ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲ケルモノ、外左ノ事務ヲ掌ル(三十三年三月三十日勅令第三百六號ヲ以テ改正ス)

一 公立學校職員ニ關スル事項

二 教員免許ニ關スル事項

三 圖書ニ關スル事項

四 建築營繕ニ關スル事項

五 高等教育會議ニ關スル事項

六 學校衛生ニ關スル事項

七 博覽會ニ關スル事項

八 褒賞ニ關スル事項

第三條 文部省專任參事官及專任書記官ハ各三人ヲ以テ定員トス

第四條 文部省ニ左ノ三局ヲ置ク(上)

專門學務局

普通學務局

實業學務局

第五條 專門學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(上)

一 帝國大學及高等學校ニ關スル事項

二 專門學校ニ關スル事項

三 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項

四 海外留學生及教員ノ海外派遣ニ關スル事項

五 圖書館及博物館ニ關スル事項

六 天文臺氣象臺及測候所ニ關スル事項

七 學術按察ノ保護獎勵ニ關スル事項

八 測地學委員會及震災豫防調査會ニ關スル事項

九 學士會院ニ關スル事項

十 學術會ニ關スル事項

- 十一 學位及之ニ類スル稱號ニ關スル事項
- 第六條 普通學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(上全)
 - 一 師範教育ニ關スル事項
 - 二 中學校ニ關スル事項
 - 三 小學校及幼稚園ニ關スル事項
 - 四 高等女學校ニ關スル事項
 - 五 盲啞學校ニ關スル事項
 - 六 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
 - 七 教育博物館ニ關スル事項
 - 八 通俗教育及教育會ニ關スル事項
 - 九 學齡兒童ノ就學ニ關スル事項
- 第六條ノ二 實業學務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(全上追加)
 - 一 工業學校ニ關スル事項
 - 二 農業學校ニ關スル事項
 - 三 商業學校ニ關スル事項
 - 四 公立及私立商船學校ニ關スル事項
 - 五 徒弟學校及實業補習學校ニ關スル事項
 - 六 以上ノ學校ニ準スヘキ各種學校ニ關スル事項
 - 七 實業教育費國庫補助ニ關スル事項
 - 八 實業學校教員ノ養成ニ關スル事項

- 第七條 文部省ニ專任視學官五人ヲ置ク奏任トス學事ノ視察ヲ掌リ又各局ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル
- 第八條 文部省ニ專任圖書審查官三人ヲ置ク奏任トス圖書ノ審查ヲ掌ル
- 第九條 文部省ニ專任技師四人ヲ置ク建築ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十條 文部省ニ專任技師八人ヲ置ク技師ノ事務ヲ助ク(明治三十二年勅令第四百四十一號ヲ以テ本條改正)
- 第十一條 文部省ニ學校衛生主事一人ヲ置ク奏任トス學校衛生ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十二條 附 則
本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス(改正條項ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス)

○文部省圖書審查官任用方明治三十年十月十六日勅令第三百四十五號

○地方官官制明治二十六年十月三十日勅令第三百六十二號

- 第一條 各府縣ニ左ノ職員ヲ置ク(明治二十九年勅令第三百三十七號ヲ以テ收稅長收稅屬收稅署ニ係ル條項廢止)
 - 知事
 - 書記官
 - 警部長
 - 參事官
 - 視學官(明治三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ追加)
 - 技師
 - 典獄

屬

視學(同上)

技手

警部

監獄書記

看守長

第二條 知事ハ一人勅任トス

第三條 書記官、警部長、參事官、視學官及典獄ハ各一人奏任トス但シ内務大臣ノ指定スル府縣ニ於テハ參事官二人ヲ置クコトヲ得(同上)

第四條 屬、警部、監獄書記及看守長ハ判任トシ各府縣ヲ通シテ左ノ人員ヲ以テ定員トス

屬、警部、監獄書記、看守長 七千人(明治二十九年勅令第百五十三號ヲ以テ改正) 五千六百六十三人(明治三十五年勅令第百五十三號ヲ以テ改正)

屬、警部、監獄書記及看守長ノ每府縣ノ定員ハ内務大臣之ヲ定メ其ノ各官ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ知事之ヲ定ム

視學ハ判任トシ其ノ定員ハ内務大臣及文部大臣之ヲ定ム(明治三十二年勅令第百五十三號ヲ以テ追加)

第五條 技師、技手ハ府縣ノ須要ニ依リ俸給豫算定額内ニ於テ之ヲ置クコトヲ得

第六條 知事ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス

第七條 知事ハ部内ノ行政事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ管内一般又ハ其ノ一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得

第八條 知事ハ郡長又ハ島司ノ處分若クハ命令ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムル

トキハ其處分若クハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第九條 知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ師團長又ハ旅團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第十條 知事ハ所部ノ官吏ヲ監督シ奏任官ノ功過ハ内務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ專行ス

第十一條 知事ハ所部ノ奏任官ノ懲戒ヲ内務大臣若クハ主務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十二條 知事ハ廳中職務ノ細則ヲ設クルコトヲ得

第十三條 知事事故アルトキハ書記官其ノ職務ヲ代理ス

前項ノ場合ニ於テ書記官事故アルトキハ内務大臣ニ於テ府縣高等官ノ一人ヲシテ知事ノ職務ヲ代理セシム

知事ハ府縣ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十四條 知事ハ其職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡長又ハ島司ニ委任スルコトヲ得

第十五條 各府縣ニ知事官房ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ラシム

一 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項

二 文書ノ往復ニ關スル事項

三 官印府縣印ノ管守ニ關スル事項

四 褒賞ニ關スル事項(同上)

第十六條 各府縣ニ左ノ部署ヲ置ク

内務部

警察部

監獄署

第十七條 内務部ニ五課ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ但シ知事ハ事務ノ情况ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ經テ課ヲ増置シ若ハ其ノ事務ノ分掌ヲ變更スルコトヲ得(同上改正)

第一課

- 一 議員選舉ニ關スル事項
 - 二 府縣行政並都市町村其ノ他公共團體ノ行政ノ監督ニ關スル事項
 - 三 府縣經濟並都市町村其ノ他公立團體ノ經濟ノ監督ニ關スル事項
 - 四 兵事ニ關スル事項
 - 五 社寺及宗教ニ關スル事項
 - 六 名勝舊蹟ニ關スル事項
 - 七 民籍ニ關スル事項
 - 八 賑恤救濟ニ關スル事項
- 右ノ外他ノ主掌ニ屬セサル事項
東京府ニ於テハ右ノ外衛生ニ關スル事項

第二課

- 一 土木ニ關スル事項
- 二 地理ニ關スル事項
- 三 土地收用ニ關スル事項

第三課

- 一 教育學藝ニ關スル事項

第四課

- 一 農工商ニ關スル事項
- 二 森林及水産ニ關スル事項
- 三 度量衡ニ關スル事項

第五課

- 一 府縣ニ屬スル國庫費ノ會計ニ關スル事項
 - 二 府縣經濟ニ屬スル收支出納ニ關スル事項
- 第十八條 警察部ニ於テハ高等警察、行政警察及衛生ノ事務ヲ掌ル
- 第十九條 (廢止)
- 第二十條 監獄署ニ於テハ監獄ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第二十一條 書記官ハ内務部長、警部長ハ警察部長、典獄ハ監獄署長トナリ知事ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス
- 第二十二條 内務部長事項アルトキハ知事ニ於テ府縣高等官ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシメ警察部長又ハ監獄署長事故アルトキハ知事ニ於テ府縣官吏ノ一人ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシム
- 第二十三條 參事官ハ知事ノ命ヲ承ケ審査立案ヲ掌ル
- 參事官ハ知事ノ命ヲ承ケ内務部ノ課長トナリ又ハ臨時部課ノ事務ヲ助ケルコトアルヘシ
- 第二十三條ノ二 視學官ハ上官ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル事務ヲ掌ル
- 視學官ハ知事ノ命ヲ承ケ内務部第三課ノ課長トナル(同上本條追加)
- 第二十四條 警察部及監獄署ニ分課ヲ設ケルコトヲ要スルトキハ知事之ヲ定メ主務大臣ニ報告スヘシ
- 第二十五條 内務部各課長ハ參事官又ハ視學官ヲ以テ課長ト爲ス場合ヲ除ク外屬ヲ以テ之ニ充ツ但シ技師

又ハ按手ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得(全上改正)
課長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ課務ヲ處理ス

第二十六條 屬ハ内務部各課及知事官房ニ分屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第二十七條 警部ハ警察部又ハ警察署若クハ警察分署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第二十八條 (廢止)

第二十九條 監獄書記ハ監獄署又ハ監獄支署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第三十條 看守長ハ監獄署又ハ監獄支署ニ屬シ上官ノ指揮ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮監督ス

第三十一條 各郡市ニ警察署ヲ置ク但シ地方ノ必要ニ應ジ郡市ノ區域ニ依ラスシテ警察署ヲ置クコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ内務大臣其ノ管轄區域ヲ定ム
知事ニ於テ必要ナリト認ムルトキハ警察署ノ下ニ警察分署ヲ置クコトヲ得(明治二十九年勅令第二百四十九號ヲ以テ改正)

第三十二條 警察署長及警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ
警察署長及警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第三十三條 巡查及看守ニ關スル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條 (廢止)

第三十五條 (廢止)

第三十六條 知事ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ須要ノ地ニ監獄支署ヲ置クコトヲ得

監獄支署長ハ監獄書記ヲ以テ之ニ充ツ
監獄支署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ支署主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第三十七條 府縣職員ノ外監獄醫ヲ置ク判任官ノ待遇トス特ニ警察醫ヲ置クトキ亦同(同上)

第三十八條 東京府ノ警察及監獄ニ關スル事項ハ警視廳官制ニ依ル

第三十九條 郡職員ヲ置クコト左ノ如シ

郡長

郡書記

郡視學(明治三十二年勅令第二百五十三號ヲ以テ追加明治三十三年四月一日ヨリ施行)

第四十條 明治十一年第十七號布告郡區町村編制法第五條ニ依リ數郡ニ郡長一人ヲ置キタル地方ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ要スルトキ及同條ニ依リ新ニ數郡ニ郡長一人ヲ置クコトヲ要スルトキハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郡制ヲ施行シタル地方ニ於テハ每郡ニ郡長一人ヲ置ク

第四十一條 郡長ハ奏任トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監督ス

第四十二條 郡長ハ行政事務ニ就テ其部内ノ町村長ヲ指揮監督ス

第四十三條 郡長ハ部下ノ判任官ノ任免ヲ知事ニ具申スルコトヲ得(同上改正)

第四十四條 郡長ハ法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付郡令ヲ發スルコトヲ得

第四十五條 郡長事故アルトキハ上席郡書記其ノ職務ヲ代理ス

第四十六條 郡長ハ郡ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第四十七條 郡書記ハ判任トス其ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ知事之ヲ定ム

郡書記ハ郡長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス(同上追加)

第四十八條 郡視學ハ一人判任トス郡長ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル庶務ニ従事ス(同上改正明治三十)

三年四月一日ヨリ施行

第四十八條ノ二 知事ハ須要ニ依リ郡ニ按手ヲ置クコトヲ得(同上)

第四十九條 勅令ヲ以テ指定スル所ノ島地ニ特ニ島廳ヲ置ク

島司

島廳書記

島廳視學(同上)

第五十一條 島司ハ一人奏任トス知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ

部下ノ官吏ヲ監督ス

第五十二條 島司ハ法律命令ニ依リ若クハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付島廳令ヲ發スルコトヲ得

第五十三條 島司ハ部下ノ判任官ノ任免ヲ知事ニ具申スルコトヲ得(同上)

第五十四條 島司ハ行政事務ニ就テ其部内町村吏員ヲ指揮監督ス

第五十五條 島司事故アルトキハ上席島廳書記其ノ職務ヲ代理ス

第五十六條 島司ハ島廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第五十七條 島廳書記ハ判任トス其ノ定員ハ其ノ府縣判任官ノ定員内ニ於テ知事之ヲ定ム

島廳書記ハ島司ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス(同上)

第五十八條 島廳視學ハ一人判任トシ當分ノ内島廳書記ヲシテ之ヲ兼テシム島司ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其

ノ他學事ニ關スル庶務ニ從事ス(同上)

第五十八條ノ二 知事ハ須要ニ依リ島廳ニ按手ヲ置クコトヲ得(同上)

附則

第五十九條 本令ハ明治二十六年十二月一日ヨリ施行ス

○高等官官等俸給令抄

明治二十五年十一月十四日勅令第九十六號

官等及叙任

第一條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除ク外高等官ヲ分チ九等トス親任式ヲ以テ叙任スル官及一等官二等官

ヲ勅任官トシ三等官乃至九等官ヲ奏任官トス

第四條 奏任官ノ任官及叙等ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其各省及各省所屬ノ官廳ニ屬スルモノハ内閣總理

大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス

第五條 奏任官ノ辭令書ハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ宣行ス

第六條 高等官官等ハ別ニ定ムルモノヲ除ク外本令中ノ文武高等官官等表ニ依ル

官制上他ノ官ニ在ル者ヲ以テ兼任セシメ又ハ之ニ充ツルノ官ニシテ別ニ官等ヲ定メサルモノハ本官ノ官

等ニ依ル(明治二十六年勅令第百六十七號ヲ以テ本條改正)

第七條 初メテ高等文官ニ任セラル、者ノ官等ハ六等以下トス

高等文官ヲ勤メ退官シタル者再ヒ高等官ニ任セラル、場合ニ於テ其官等ハ前官ノ官等以下トス(明治三十二年勅令第百二十七號ヲ以テ第一、二項改正)

但前官ノ官等七等以下ナルトキハ陞シテ六等官ニ至ルコトヲ得(明治二十八年勅令第百二十三號ヲ以テ追加)

第八條 高等官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタル者及七等以下ノ者ヲ除ク外在職滿二年ヲ除ユルニ非サレ

ハ陞叙スルコトヲ得ス(同上及同三十二年勅令第百二十七號ヲ以テ改正)

俸給

第九條 高等文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノ、外左ノ如シ(改正年月等ハ略ス)

內閣ノ部

內閣總理大臣

內閣所屬職員

書記官長

局長

書記官

內閣總理大臣秘書官

統計局審査官

印刷局事務官

恩給局審査官

賞勳局

總裁

書記官

法制局

長官

參事官

各省ノ部

大臣

次官

製鐵所長官

(年俸)

九千六百圓

四千圓

三千圓

高等文官年俸第一號表ニ依ル

高等文官年俸第二號表ニ依ル

三千五百圓

高等文官年俸第二號表ニ依ル

四千圓

勅任三千圓
委任高等文官年俸第一號表ニ依ル

六千圓

四千圓

四千圓

鐵道作業局長官

參與官

局長

造幣局長

專賣局長

商船學校長

航路標識管理所長

橫濱稅關長

神戸稅關長

大阪稅關長

長崎稅關長

函館稅關長

橫濱港務局長

神戸港務局長

東京郵便電信學校長

長崎港務局長

參事官

秘書官

書記官

四千圓

三千五百圓

三千圓

一級俸二千五百圓
二級俸二千二百圓
三級俸二千圓

一級俸三千圓
二級俸二千五百圓

一級俸二千五百圓
二級俸二千圓

一級俸二千五百圓
二級俸二千圓

一級俸二千五百圓
二級俸二千圓

一級俸二千圓
二級俸一千八百圓
三級俸一千六百圓
四級俸一千四百圓

高等文官年俸第一號表ニ依ル

林務官

特許局審査官

鑛山監督官

製鐵所事務官

水産講習所監事

水産講習所教授

鐵道事務官

通信事務官

港務官

港務局醫官

船舶司檢所司檢官

商船學校教授

高等海員審判所審判官

高等海員審判所理事官

地方海員審判所審判官

地方海員審判所理事官

專賣局事務官

司稅官

林野整理局監督官補

通信事務官補

林野整理局書記官

鐵道作業局部長

外務省翻譯官

臨時檢疫事務官

監獄事務官

造神宮主事

大藏省鑑定官

專賣局鑑定官

稅務管理局長

稅關事務官

稅關監視官

稅關鑑定官

臨時沖繩縣土地整理事務局事務官

視學官

圖書審査官

學校衛生主事

帝國圖書館長

山林局事務官

林野整理局監督官

特許局審判官

高等文官年俸第二號表ニ依ル

警部長、視學官、參事官、典獄ハ別ニ左表ノ加俸ヲ受ク

府 縣 官 名	知 事	書 記 官	警 部 長	視 學 官	參 事 官	典 獄
東京府、京都府、大阪府、神奈川縣、兵庫縣	四百圓	四百圓	四百圓	二百圓	二百圓	二百圓
長崎縣、新潟縣、愛知縣、宮城縣、廣島縣、福岡縣、熊本縣	二百圓	二百圓	二百圓	百圓	百圓	百圓

第三條 內務大臣ニ於テ特ニ指定シタル地ノ島司及郡長ハ別ニ二百圓ノ加俸ヲ受ク

第四條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 當分ノ内第二條ノ府縣以外ノ書記官警部長ノ年俸ハ第一條ノ規定ニ拘ハラズ書記官ニアリテハ千五百圓警部長ニ在リテハ千圓ヲ給スルコトヲ得

第六條 本令施行ノ際別ニ辭令ヲ受ケサル者ハ現ニ受クル俸給額ニ相當スル等級俸及ハ第五條ノ俸給額ヲ受ク但別ニ加俸ヲ受クヘキ者ニ在リテハ現ニ受クル俸給額中本令ニ定ムル加俸額ニ相當スル部分ヲ以テ其ノ加俸ト見做シ其ノ他ノ部分ヲ以テ等級俸ト看做ス

文武判任官等級表

明治二十七年四月十三日 勅令第四十三號

一 等	二 等	三 等	四 等	五 等
-----	-----	-----	-----	-----

各 局	特別 二級俸	各 局	三級俸	各 局	五級俸	各 局	七級俸	各 局	九級俸
帝國大學助手	帝國大學助手	帝國大學助手	帝國大學助手	帝國大學助手	帝國大學助手	帝國大學助手	帝國大學助手	帝國大學助手	帝國大學助手
文部省直轄諸學校助教授	文部省直轄諸學校助教授	文部省直轄諸學校助教授	文部省直轄諸學校助教授	文部省直轄諸學校助教授	文部省直轄諸學校助教授	文部省直轄諸學校助教授	文部省直轄諸學校助教授	文部省直轄諸學校助教授	文部省直轄諸學校助教授
高等師範學校女子高等師範學校	高等師範學校女子高等師範學校	高等師範學校女子高等師範學校	高等師範學校女子高等師範學校	高等師範學校女子高等師範學校	高等師範學校女子高等師範學校	高等師範學校女子高等師範學校	高等師範學校女子高等師範學校	高等師範學校女子高等師範學校	高等師範學校女子高等師範學校
女子高等師範學校校保姆	女子高等師範學校校保姆	女子高等師範學校校保姆	女子高等師範學校校保姆	女子高等師範學校校保姆	女子高等師範學校校保姆	女子高等師範學校校保姆	女子高等師範學校校保姆	女子高等師範學校校保姆	女子高等師範學校校保姆
帝國圖書館司書	帝國圖書館司書	帝國圖書館司書	帝國圖書館司書	帝國圖書館司書	帝國圖書館司書	帝國圖書館司書	帝國圖書館司書	帝國圖書館司書	帝國圖書館司書
北海道廳屬	北海道廳屬	北海道廳屬	北海道廳屬	北海道廳屬	北海道廳屬	北海道廳屬	北海道廳屬	北海道廳屬	北海道廳屬
北海道廳屬	北海道廳屬	北海道廳屬	北海道廳屬	北海道廳屬	北海道廳屬	北海道廳屬	北海道廳屬	北海道廳屬	北海道廳屬
郡區書記	郡區書記	郡區書記	郡區書記	郡區書記	郡區書記	郡區書記	郡區書記	郡區書記	郡區書記
郡視學	郡視學	郡視學	郡視學	郡視學	郡視學	郡視學	郡視學	郡視學	郡視學

○判任官俸給令抄

明治二十四年七月二十七日 勅令第八十三號

第一條 判任文官ノ月俸ヲ別テ十級トシ別表ニ依リ毎月下旬ニ於テ之ヲ支給ス

第二條 判任官ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ増給スルコトヲ得ス

但シ六級俸以下ノ者ハ此限ニアラス(明治三十年勅令第二百二十三號ヲ以テ追加)
第四條 判任官最上級俸ヲ受ケ五年ヲ踰ヘ事務練熟優等ナル者ハ特別ヲ以テ別表ノ範圍ニ拘ラス百圓マテ増俸スルコトアルヘシ(明治三十一年勅令第三百十號ヲ以テ改正)

第五條 官ニ在リテ死亡シタル者ハ月俸三箇月分ヲ其遺族ニ給ス非職者ニ於テモ亦同シ
但遺族トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ(明治二十五年勅令第九十七號ヲ以テ追加)
別表(明治三十一年勅令第三百十號ヲ以テ改正)

一級	七十五圓	二級	六十圓	三級	五十圓	四級	四十五圓	五級	四十圓
六級	三十五圓	七級	三十圓	八級	二十五圓	九級	二十圓	十級	十五圓

(參照)

北海道廳府縣及管視廳判任官ニハ本表中最低額以下六圓マテノ月俸ヲ給スルコトアルヘシ(明治二十六年十月三十日勅令第八十二號)

○内國旅費規則

明治三十年九月二十四日 勅令第三百三十三號

朕内國旅費規則改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内國旅費規則

第一條 内國旅費ハ官吏公務ニ依リ本邦内ヲ旅行スルトキ之ヲ支給ス

第二條 内國旅費ハ分テ四等トシ別表定ムル處ニ從ヒ順路ニ依リ之ヲ支給ス

第三條 汽車旅行ニハ哩數ニ應シ汽車賃ヲ水路旅行ニハ海里數ニ應シ船賃ヲ其ノ他ノ旅行ハ陸路旅行トシ里數ニ應シ車馬賃ヲ支給ス

宿泊料ハ夜數ニ應シ日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス但シ水路旅行ニハ宿泊料ヲ支給セス
官用ノ船舶ニテ旅行シ官ヨリ附テ爲サ、ルトキハ食卓料ヲ支給ス

第四條 官用ノ舟車馬等ニテ旅行スルトキハ本令ノ汽車賃船賃車馬賃ヲ支給セス
旅行ノ性質又ハ地方ノ情况ニヨリ定額ノ汽車賃船賃車馬賃ヲ以テ支辨シ難キ場合ハ實費ヲ以テ支給スルコトヲ得

第五條 強雨積雪又ハ道路險惡ノ爲メ定額ノ車馬賃ニテ支辨シ難キ場合ハ定額二倍以内ノ車馬賃ヲ支給スルコトヲ得

第六條 汽車賃船賃車馬賃ハ旅行ノ種類毎ニ經過セシ路程ヲ合算シテ之ヲ支給ス但シ一位未滿端數ノ路程ハ切捨トス

第七條 年度若ハ日ニ依リテ旅費ヲ區分シテ計算スルノ必要アル場合ニ於テ汽車旅行若ハ水路旅行ニシテ其ノ區分判明ナラサルトキハ最近ノ到達地ニ著シタル日ヲ以テ其ノ路程ヲ區別シテ計算ス

第八條 陸路六里未滿汽車十哩未滿水路十海里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ支給セス但シ公務ノ都合ニ依リ宿泊シタルトキハ日當及宿泊料ヲ支給ス

第九條 在勤廳所在地ノ市區町村内ヲ巡廻シ遠距離ニ涉ルトキハ一日五十錢以内ノ車馬賃ヲ支給スルコトヲ得

第十條 赴任ノ場合ニハ舊任地ヨリ新任地マテ汽車賃船賃及車馬賃ニ限り定額ノ二倍ヲ支給ス

第十一條 旅行中私事ノ爲メ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルトキハ順路ノ路程ニ應シ旅費ヲ支給ス

第十二條 旅行中廢官退官非職退職若ハ死亡ノモノニハ前官若ハ本官相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ支給

ス但シ刑事裁判又ハ懲戒處分ニ依リ退官ノモノハ此ノ限ニアラス

第十三條 前二條ノ場合ニ於テ日數ノ計算方ハ汽車旅行ハ一日二百哩詰水路旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰トス但シ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行ヲ十二時間トス但シ通算上ヨリ生スル一日未滿ノ端數ハ一日トシテ之ヲ計算ス

第十四條 測量土木工事等ノ爲メ現場ヲ巡廻スル官吏又ハ平常旅行ヲ要スル官吏ニ對シテ各省大臣ハ特ニ其旅費額ヲ定メ月額又ハ日額ヲ以テ之ヲ支給スルコトヲ得

第十五條 各省大臣ハ旅費ノ定額ヲ減少シ若ハ其ノ一部ヲ支給セサルコトヲ得

第十六條 事務引繼殘務取調等ノ爲メ廢官若ハ退官者ニ旅行ヲ命スルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十七條 新ニ任用スル爲メ召喚スルトキハ新任官相當ノ旅費ヲ支給ス

第十八條 陸海軍武官文官及警察官ノ旅費ハ主任大臣大藏大臣ト協議シ別ニ之ヲ定ム

第十九條 雇員其ノ他本令ニ明文ナキモノ、旅費ハ別ニ準シ主任大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

附 則

第二十條 各省大臣ハ當分ノ内臺灣内ノ旅行ニ限リ旅費定額ヲ以テ支辨シ難シト認ムル場合ニ於テ大藏大臣ニ協議シ定額ノ旅費ニ對シ必要ノ増額ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 各省大臣ハ當分ノ内臺灣在勤滿二年以上ニシテ廢官論旨退官者ハ非職トナリ三十日以内ニ同地出發歸郷スルモノニハ前官若ハ本官相當ノ旅費ヲ支給スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ日數ノ計算方ハ第十三條ノ例ニ據ル

臺灣在勤中死亡ノ者アルトキハ本條ニ準シ歸郷旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第二十二條 本令ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

(別表) (明治三十二年勅令第百八號ヲ以テ改正)

旅 費 額

等	級	汽車賃 <small>一哩ニ付</small>	船賃 <small>一海里ニ付</small>	車馬賃 <small>一里ニ付</small>	宿泊料 <small>一夜ニ付</small>	日當 <small>一日ニ付</small>	食卓料 <small>一日ニ付</small>
一	親任官	七 錢	七 錢	三十五 錢	三 圓	二圓五十 錢	一圓七十 錢
二	勅任官	六 錢	六 錢	三十 錢	二 圓	一圓五十 錢	一圓五十 錢
三	委任官	五 錢	五 錢	二十 錢	一圓五十 錢	一 圓	一圓二十 錢
四	判任官	四 錢	四 錢	十五 錢	一 圓	五十 錢	九十 錢

○文官任用令

明治三十二年三月二十七日 勅令 第六十一號

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ文官任用令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官任用令

第一條 勅任文官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス但シ親任式ヲ以テ叙任スル官及別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 委任文官 特別ノ規程ニ依リ任用セラレタル者及教官、技術官ヲ除クノ職ニ在ル者及在リタル者ニシテ高等官三等ノ文官ノ職ニ在ル者及在リタル者

二 滿一年以上勅任文官ノ職ニ在リタル者但シ特別任用ノ規程ニ依リ在職シタル者並ニ教官、技術官ノ在職年數ヲ除ク

三 勅任文官 特別ノ規程ニ依リ任用セラレタル者及教官、技術官ヲ除クノ職ニ在リタル者ニシテ本令第二條第一項ノ資格ヲ有スル者

四 滿二年以上勅任檢事ノ職ニ在ル者及在リタル者

滿二年以上勅任判事ノ職ニ在ル者及在リタル者ハ司法省ノ勅任文官ニ任用スルコトヲ得
滿二年以上帝國大學及文部省直轄諸學校ノ勅任文官ノ職ニ在ル者及在リタル者ハ文部省部内ノ勅任文官
ニ任用スルコトヲ得

陸海軍將官ハ別ニ任用ノ規程アルモノ、外各其ノ部内ノ勅任文官ニ任用スルコトヲ得

第二條 奏任文官ハ別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノ、外左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一 文官高等試験ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者

二 滿二年以上高等文官ノ職ニ在リタル者但シ特別任用ノ規程ニ依リ在職シタル者並ニ教官、技術官ノ
在職年數ヲ除ク

三 滿二年以上檢事ノ職ニ在ル者及在リタル者

滿二年以上判事ノ職ニ在ル者及在リタル者ハ司法省ノ奏任文官ニ任用スルコトヲ得

第三條 判任文官ハ別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノ、外左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ之ヲ任用ス

一 文官普通試験ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者

二 文官高等試験ヲ經テ其ノ合格證書ヲ有スル者

三 官立公立中學校又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等以上ト認メタル官立公立學校ノ卒業證書ヲ有スル者

四 高等商業學校舊附屬主計學校及舊主計專修科ノ卒業證書ヲ有スル者並ニ文部大臣ノ認可ヲ經タル學
則ニ依リ法律學、政治學又ハ經濟學ヲ教授スル私立學校ニ於テ明治二十六年十一月十日以前ニ卒業
證書ヲ得タル者

五 滿二年以上文官ノ職ニ在リタル者但シ特別任用ノ規程ニ依リ在職シタル者並ニ教官、技術官ノ在職
年數ヲ除ク

第四條 教官及技術官ハ別ニ任用ノ規程ヲ設クルモノ、外高等官ニ在リテハ文官高等試験委員、判任官ニ

在リテハ文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經テ之ヲ任用ス

第五條 特別ノ學術技藝ヲ要スル行政官ハ高等官ニ在リテハ文官高等試験委員、判任官ニ在リテハ文官普
通試験委員ノ銓衡ヲ經テ教官、技術官ノ中若ハ試験委員ニ於テ教官、技術官タルノ資格アリト認ムル者ノ
中ヨリ之ヲ任用スルコトヲ得

第六條 滿五年以上雇員トシテ同一官廳ニ勤續シタル者ハ文官普通試験委員ノ銓衡ヲ經テ直ニ其ノ官廳ノ
判任文官ニ任用スルコトヲ得

第七條 本令第一條第二項第三項第四項、第二條第二項、第四條、第五條及第六條其ノ他特別ノ規程ニ依リ
任用セラレタル者ハ文官試験ヲ經ルニ非サレハ其ノ各條項又ハ其ノ規程ニ指定シタル以外ノ文官ニ任用
スルコトヲ得ス

第八條 文官任用及銓衡ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第九條 本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

○文官分限令

明治三十二年三月二十七日
勅令第六十二號

第一條 本令ハ親任式ヲ以テ叙任スル官、公使、秘書官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外一般ノ文官
ニ適用ス

第二條 官吏ハ刑法ノ宣告、懲戒ノ處分又ハ本令ニ依ルニ非サレハ其ノ官ヲ免セラル、コトナシ

第三條 官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ官ヲ免スルコトヲ得

- 一 不具、癡疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ
- 二 傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ免官ヲ願出タルトキ
- 三 官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

前項第一號ニ依リ其ノ官ヲ免スルトキハ高等官ニ在テハ文官高等懲戒委員會、判任官ニ在テハ文官普通懲戒委員會ノ審査ニ付ス

第四條 官吏ハ廢官若ハ廢廳ノ場合ニ於テハ當然退官者トス

第五條 第十一條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレ滿期ニ至リタルトキハ當然退官者トス

第六條 官吏ハ其ノ意ニ反シテ同等官以下ニ轉官セラル、コトナシ

第七條 文官高等懲戒委員會ニ顧問醫二人ヲ置ク

審査上必要ノ場合ニ於テハ臨時顧問醫ヲ加フルコトヲ得

第八條 文官普通懲戒委員會ニ臨時顧問醫ヲ置ク

第九條 懲戒委員會ハ本令ニ依ル審査ヲ爲ス前豫メ顧問醫ノ意見ヲ徵スヘシ

第十條 第三條第二項ニ依ル懲戒委員會ノ審査ニ關シテハ文官懲戒令第十二條第十三條第二十四條第二

十五條第二十九條乃至第三十四條ノ規定ヲ準用ス

第十一條 官吏左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ休職ヲ命スルコトヲ得

一 懲戒令ノ規定ニ依リ懲戒委員會ノ審査ニ付セラレタルトキ

二 刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

三 官制又ハ定員ノ改正ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

四 官廳事務ノ都合ニ依リ必要ナルトキ

前項休職ノ期間ハ第一號及第二號ノ場合ニ在テハ其ノ事件ノ懲戒委員會又ハ裁判所ニ繫屬中トシ第三號

及第四號ノ場合ニ在テハ滿三年トス

第十二條 休職者ハ其ノ本官ヲ奉シテ職務ニ從事セス其ノ他總テ在職官吏ト異ナルコトナシ

前條第一項第三號及第四號ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ本屬長官ハ事務ノ都合ニ依リ何時ニテモ復

職ヲ命スルコトヲ得

第十三條 第十一條ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ給ス

第十四條 免官ハ勅任官ニ在テハ内閣總理大臣、奏任官ニ在テハ内閣總理大臣ヲ經テ本屬長官奏請シ裁可

ニ依リ之ヲ行フ

休職ハ勅任官ニ在テハ内閣總理大臣奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行ヒ奏任官ニ在テハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經

テ本屬長官之ヲ命ス其ノ復職ヲ命スルトキ亦同シ

附 則

第十五條 本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

官吏非職條例、明治二十三年勅令第二百八十六號其ノ他従前ノ命令ニシテ本令ノ規定ニ抵觸スルモノハ

本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十六條 本令施行前官吏非職條例又ハ明治二十三年勅令第二百八十六號ニ依リ非職又ハ休職ヲ命セラレ

未タ滿期ニ至ラサル者ハ本令第十一條第一項第四號ノ休職者ニ關スル規定ヲ適用ス但シ本令第十三條ハ

此ノ限ニ在ラス

第十七條 本令中休職トアルハ他ノ法令ニ於テ規定スル非職ト看做ス

(參照)

勅令第二百八十六號(明治二十三年十二月二十七日官報)

第一條 技術官ノ休職ハ一年ヲ一期トス期滿レハ其官ヲ免ス

第二條 技術官ノ休職ニ關シ特別ノ規定ナキモノハ總テ官吏非職ノ例ニ依ル

第三條 本令ハ明治二十四年二月一日ヨリ施行ス現ニ休職中ノ者ノ休職期限モ亦同日ヨリ起算ス

○文官懲戒令 明治三十二年三月二十七日 勅令第六十三號

第一章 總 則

第一條 親任式ヲ以テ叙任スル官及法令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外官吏ハ本令ニ依ルニ非サレハ懲戒ヲ受クルコトナシ

第二條 官吏ノ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ

- 一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ
- 二 職務ノ内外ヲ問ハス官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ所爲アリタルトキ

第三條 懲戒ハ左ノ如シ

- 一 免官
- 二 減俸
- 三 譴責

第四條 免官ノ處分ヲ受ケタル者ハ其ノ官職ヲ失ヒタル日ヨリ二年間官職ニ就クコトヲ得ス

免官ノ處分ヲ受ケ其ノ情重キ者ハ位記ヲ返上セシム

第五條 減俸ハ一月以上一年以下年俸月割額若ハ月俸ノ三分一以下ヲ減ス

第六條 勅任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ内閣總理大臣之ヲ奏請シ奏任官ノ免官ハ懲戒委員會ノ議決ヲ具シ内閣總理大臣ヲ經テ本屬長官之ヲ奏請シ裁可ニ依リ之ヲ行フ

奏任官ノ減俸及判任官ノ免官及減俸ハ懲戒委員會ノ議決ニ依リ本屬長官之ヲ行フ

譴責ハ本屬長官之ヲ行フ

第七條 懲戒ニ付セラルヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ對シ懲戒委員會ヲ開クコトヲ得ス

懲戒委員會ノ議決前懲戒ニ付スヘキ者ニ對シ刑事訴訟追ノ始マリタルトキハ事件ノ判決ヲ終ハルマテ懲戒委員會ノ開會ヲ停止ス

第二章 懲戒委員會

第一款 總則

第八條 懲戒委員會ヲ分テ文官高等懲戒委員會及文官普通懲戒委員會トス

第九條 文官高等懲戒委員會ハ高等官ノ懲戒ヲ議決シ文官普通懲戒委員會ハ判任官ノ懲戒ヲ議決ス

第二款 文官高等懲戒委員會

第十條 文官高等懲戒委員會ハ委員長一人委員六人ヲ以テ組織ス

第十一條 委員長ハ樞密顧問官ノ中ヨリ委員ハ行政裁判所長官、勅任行政裁判所評定官、勅任判事及其ノ他ノ勅任文官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

委員會ニ豫備委員六人ヲ置キ前項ノ例ニ依リ之ヲ命ス

第十二條 委員會ハ委員長及委員ヲ併セ五人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

委員會ノ議事ハ多數ニ依リ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

第十三條 委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

委員中事故アルトキ又ハ副員アルトキハ委員長ハ豫備委員ノ中ヨリ代理ヲ命ス

第十四條 委員及豫備委員ノ任期ハ三年トス

委員及豫備委員中副員アリテ補闕ノ爲任命セラレタル者ハ前任者ノ殘任期間在任ス

第十五條 委員長及委員ハ左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ免ス

- 一 其ノ官職ヲ失ヒタルトキ
- 二 委員會所在地以外ニ任所ヲ轉シタルトキ

第十六條 委員會ニ幹事一人ヲ置ク

第十七條 幹事ハ高等官ノ中ヨリ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ之ヲ命ス

第十八條 幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ委員會ノ議事ヲ準備シ庶務ヲ統理ス

第十九條 委員會ニ書記三人ヲ置ク

第二十條 書記ハ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十一條 書記ハ幹事ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第三款 文官普通懲戒委員會

第二十二條 文官普通懲戒委員會ハ左ノ各官廳ニ之ヲ置ク

一 内閣

一 樞密院

一 各省

一 臺灣總督府

一 會計検査院

一 行政裁判所

一 警視廳

一 北海道廳

一 府縣

一 臺灣ノ縣及廳

一 貴族院事務局

一 衆議院事務局

前項ノ外各省大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ所轄官廳ニ文官普通懲戒委員會ヲ置クコトヲ得

第二十三條 委員長ハ各官廳ノ長官ヲ以テ之ニ充ツ但シ内閣ニ在テハ法制局長官、樞密院ニ在テハ書記官

長、各省ニ在テハ次官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ二人乃至六人トシ當該官廳高等官ノ中ヨリ本屬長官之ヲ命ス但シ内閣ニ在テハ賞勳局、法制局及内閣所屬高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

第二十四條 委員會ハ委員長及委員二人以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第二十五條 委員長事故アルトキハ上席ノ委員之ヲ代理ス

第二十六條 委員會ニ書記二人ヲ置ク

第二十七條 書記ハ委員長所屬官廳ノ判任官ノ中ヨリ委員長之ヲ命ス

第二十八條 書記ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第三章 懲戒手續

第二十九條 本屬長官ハ所部ノ官吏ニシテ懲戒ニ當ルヘキ所爲アリト思料スルトキハ證據ヲ具ヘ書面ヲ以テ懲戒委員會ノ審査ヲ要求スヘシ

第二十條 前條ノ要求アリタルトキハ委員長ハ期日ヲ定メテ委員會ヲ招集スヘシ

委員會ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ本人ノ出頭ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ本人所屬官廳ヨリ内國旅費規則ニ依リ本官相當ノ旅費ヲ給スヘシ

第三十一條 委員會ニ於テ議決ヲ爲シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ本屬長官ニ覆申スヘシ

第三十二條 委員長及委員ハ自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件ノ會議ニ參與スルコトヲ得ス

第三十三條 委員會ノ審査手續ハ委員會之ヲ定ム

附 則

第三十四條 高等官試補ハ高等官ニ準シ判任官見習ハ判任官ニ準シ本令ヲ適用ス

第三十五條 本令ハ明治三十二年四月十日ヨリ施行ス

官吏懲戒例ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

○文官判任以上ノ者退官賜金支給方

明治二十三年六月二十日
勅令第九十八號

文官判任以上ノ者在官滿一年以上ニシテ退官シタル者ニハ退官現時ノ俸給半箇月分ヲ以テ在官年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス但非職滿期ニ由リ退官シタル者ハ其在職最終ノ俸給額ニ依リ之ヲ給ス(明治二十六年勅令第一號ヲ以テ改正)

本令施行前ニ滿年賜金若クハ一時賜金ヲ受ケタル者又ハ前項ノ賜金ヲ受ケタル者再ヒ任官シ自後退官シタルトキハ前項ニ掲ケル在官年數ヲ其再任ノ日ヨリ起算ス

恩給ヲ受ケル者並自己ノ便宜ニ由リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ由リ免官シタル者ニハ本令ノ賜金ヲ給セス

本令ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

○官吏服務紀律

明治二十年七月二十九日
勅令第三十九號

朕官吏服務紀律ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ施行セム

官吏服務紀律

- 第一條 凡ソ官吏ハ天皇陛下及天皇陛下ノ政府ニ對シ忠順勤勉ヲ主トシ法律命令ニ從ヒ各其職務ヲ盡スヘシ
- 第二條 官吏ハ其職務ニ付本屬長官ノ命令ヲ遵守スヘシ但其命令ニ對シ意見ヲ述ルコトヲ得
- 第三條 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ廉耻ヲ重シ貪汚ノ所爲アルヘカラス
- 官吏ハ職務ノ内外ヲ問ハズ威權ヲ濫用セス謹慎懇切ナルコトヲ務ムヘシ
- 第四條 官吏ハ己ノ職務ニ關スルト又ハ他ノ官吏ヨリ聞知シタルトテ問ハス官ノ機密ヲ漏洩スルコトヲ禁ス其職ヲ退ク後ニ於テモ亦同様トス

裁判所ノ召喚ニ依リ證人又ハ鑑定人ト爲リ職務上ノ秘密ニ就キ訊問ヲ受クルトキハ本屬長官ノ許可ヲ得タル件ニ限り供述スルコトヲ得

第五條 官吏ハ私ニ職務上未發ノ文章ヲ關係人ニ漏示スルコトヲ禁ス

第六條 官吏ハ本屬長官ノ許可ナクシテ擅ニ職務ヲ離レ及職務上居住ノ地ヲ離ル、コトヲ得ス

第七條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ營業會社ノ社長又ハ役員トナルコトヲ得ス

第八條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其職務ニ關シ慰勞又ハ謝儀又ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ

直接ト間接トテ問ハス總テ他人ノ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス

官吏外國ノ君主又ハ政府ヨリ授與セントスル所ノ勳章榮賜俸給並贈遺ヲ受クルニハ天皇陛下ノ裁可ヲ要ス

第九條 左ニ掲ケタル者ト直接ニ關係ノ職務ニ居ルノ官吏ハ其饗燕ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 官廳ノ工事ヲ受負フ者
 - 一 官廳ノ爲替方又ハ出納ヲ引受クル者
 - 一 官廳ノ補助金ヲ受クル起業者
 - 一 官廳ノ用品ヲ調達スル者
 - 一 官廳ト諸般ノ契約ヲ結フ者
- 第十條 凡ソ上官タル者ハ職務ノ内外ヲ問ハズ所屬官吏ヨリ贈遺ヲ受クルコトヲ得ス
- 第十一條 官吏並ニ其家族ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ直接ト間接トテ問ハス商業ヲ營ムコトヲ得ス
- 第十二條 官吏ハ取引相場會社ノ社員タルコトヲ得ス及間接ニ相場商業ニ關係スルコトヲ得ス
- 第十三條 官吏ハ本屬長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ本職ノ外ニ給料ヲ得テ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス